

(公社) 栃木県サッカー協会事務局

〒320-0857 宇都宮市鶴田2-2-10

鈴運メンテック株ビル2F

TEL 028-688-8411 / FAX 028-688-8400

URL <http://www.tfa.or.jp/>



contents

- 1 第47回栃木県社会人サッカーリーグ、第16回栃木県大学サッカーリーグ表彰式
- 2 平成26年度アクションプラン / 栃木県サッカー協会取り組み
- 3 2014年度のTFA活動目標
- 4 栃木SC2014シーズンメッセージ
- 5 JFL2014シリーズに向けて
- 6 2014シリーズに向けて / 第47回関東社会人サッカー大会に出場して
- 7 第47回栃木県社会人サッカー2部リーグ優勝について
- 8 第16回栃木県大学サッカーリーグ優勝に際して
- 9 高校連盟より / 各大会県予選結果・本大会に参加して
- 10 平成26年度栃木県高校サッカー関係行事日程
- 11 中学生年代の現状と課題
- 12 今年度の活動を振り返って
- 13 第4種委員会 / 第42回栃木県少年サッカー選手権大会
- 14 第23回ハーモニックカップ全日本少年フットサル大会栃木県大会
- 15 QUALIER CUP 第31回栃木県少年サッカー新人大会
- 16 第7回関東シニア選手権大会 (Over-50) 成績表
- 17 第7回関東シニアサッカー選手権大会 (Over-40) 最終成績表 / 第14回全国シニア関東予選大会 (Over-60) 成績表
- 18 第4回全国シニアフェスティバル関東予選・第1回関東選手権 (Over-70) 大会成績表
- 19 とちぎクラスタルリーグフェスティバル
- 20 全日本ユース (U-15) フットサル / 全日本ユース (U-18) フットサル
- 21 ハーモニックカップと全日本フットサル栃木県予選 / 本年度を振り返って / 関東女子リーグ2部リーグ発足
- 22 「クラスタル」スタート / 「ワールドカップ出場を最後に決めた33番目のチーム。ワールドカップ審判団」
- 23 栃木県フットボールカンファレンス2014開催
- 24 中央トシセン112
- 25 平成25年度賛助会員ご芳名 / 賛助会員募集のお願い / 事務所移転のお知らせ
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31
- 32
- 33
- 34
- 35
- 36
- 37
- 38
- 39
- 40
- 41
- 42
- 43
- 44
- 45
- 46
- 47
- 48
- 49
- 50
- 51
- 52
- 53
- 54
- 55
- 56
- 57
- 58
- 59
- 60
- 61
- 62
- 63
- 64
- 65
- 66
- 67
- 68
- 69
- 70
- 71
- 72
- 73
- 74
- 75
- 76
- 77
- 78
- 79
- 80
- 81
- 82
- 83
- 84
- 85
- 86
- 87
- 88
- 89
- 90
- 91
- 92
- 93
- 94
- 95
- 96
- 97
- 98
- 99
- 100



平成26年度 アクションプラン

- ・公益社団法人 栃木県サッカー協会の取り組み
- ・2014年度のTFA活動目標

※写真 第47回栃木県社会人サッカーリーグ、第16回栃木県大学サッカーリーグ 表彰式
平成26年1月11日 ホテルニューイタヤ

アクションプラン

公益社団法人

栃木県サッカー協会の理念

公益財団法人日本サッカー協会の理念に基づき、栃木県においてサッカーの普及発展、競技力の向上に努め、サッカーを通じて栃木県民の豊かなスポーツ文化の振興及び心身の健全な発達に寄与する。

公益社団法人

栃木県サッカー協会のビジョン

1. 栃木県のサッカーの普及に努め、スポーツに親しむ環境を構築し、県民に健康と幸せを与える
2. 競技力の向上を図り、栃木県代表チーム・選手が日本及び世界で活躍することにより県民に夢と希望を与える。
3. フェアプレーの精神を広め、人々の友好を深め、安全で豊かな社会を構築することに貢献する。

公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み (TFAミッションファイル)

《10年後の達成目標 (TFAゴールプラン2022)》

目標項目	達成目標	活動内容	現状数値
サッカーファミリーの拡大	サッカーを愛する仲間(サッカーファミリー)のうち、 <u>プレーヤー・審判員・指導者が4万人</u> (県民の2%)になる。	1. 第1種登録チームの選手登録数の拡大 2. U13~18年代の選手登録数の拡大 3. 女子の選手登録数の拡大 4. フットサル選手登録数の拡大	2013年度 サッカー選手登録 18,013人 フットサル登録 1,876人 審判員 5,717人 指導者 2,074人 計 27,680人 県民人口 1,985,867人 県民の 1.39%
本県代表の活躍	本県代表チームが全国のトップチームとなり、本県出身選手が「 <u>日本代表</u> 」として <u>5名以上</u> 、「 <u>Jリーガー</u> 」として <u>20名以上</u> 活躍する。	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成	2013年度 日本代表 0人 女子日本代表 2人 Jリーガー 14人
組織の確立	(公社)栃木県サッカー協会が全国及び県民より信頼の得られる組織として確立し、 <u>全国ランキングトップ10入り</u> する。	1. 組織内の連携強化 2. 組織基盤の確立 3. 実施事業の充実	2011年度 全国ランキング 第22位
J1チームの創設・活用	<u>栃木SCがJ1に昇格</u> し、本県選手と県民に夢と活気を与える。	1. 連携・共存体制の確立 2. サポート体制の確立 3. 協同連携事業の実施	2013年度 J2所属栃木SC
サッカー施設の充実	<u>新たなスタジアムの完成</u> と県内の <u>人工芝サッカー場が15面に増加</u> する。	1. 対象自治体への整備要望活動の展開	2013年度 人工芝サッカー場 ・鹿沼市 1面 ・宇都宮市 1面 ・矢板市 1面 ・那須塩原市 1面 ・日光市 2面 ・佐野市 1面 計 7面
2022年栃木国体での大活躍	栃木国体において「 <u>総合優勝</u> 」する	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成	

2014年度
TFA活動目標

- (1)アクションプランの遂行<各連盟・委員会のプランの遂行>
- (2)サッカーファミリーの拡大<プレーヤー・審判員・指導者登録数を県民の1.5%を目指す>
- (3)各種別の本県代表チームの活躍<全国大会ベスト8以上、関東大会準優勝以上を目指す>
- (4)長崎国体でベスト4以上を目指す。
- (5)J2栃木SC、JFL栃木ウーヴァFCとの連携・協力体制の確立
- (6)女子サッカー普及<皇后杯女子サッカー大会の県内開催誘致>
- (7)サッカー施設の拡充<人工芝サッカー場の2面増設>
- (8)県内各地区サッカー協会との連携・協力
- (9)財政の健全化<事務局体制の強化・会計処理の一元化の推進>

1. 第1種委員会：社会人連盟

2014年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・県内リーグチーム強化 ・各種大会の運営及び委員会への出席率の向上 ・各委員会の組織強化 ・J2チーム指導者による登録チーム指導者及び選手に対する指導講習会の実施 ・県1部リーグから関東リーグへのチーム昇格 ・全国大会の誘致に向けた取り組み
	<p><数値目標> 事業及び委員会への出席率をUP (60%へUP)</p> <p><スローガン> チーム社会人(1種)の取り組み</p>
2014年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・県内リーグの活性化 ・各委員会(総務・審判・技術・競技・財務)の確立(適数人員) ・J2・JFLチームとの連携による県内チームの強化 ・各種大会運営員の適正人数の確保 ・栃木国体に向け運営レベルアップのために全国大会開催の事前調査及び誘致準備
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・県内2部上位リーグのチーム強化として1部リーグと同等のレギュレーション(2回戦総当たり)での実施 ・各委員会メンバーの適正化 ・J2・JFLとの連携・協力

2. 第2種委員会：高校連盟

2014年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高校サッカーの活性化(男女) ・高校サッカー部員の増加(男女) ・本県代表校の活躍(男女) ・栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化
	<p><数値目標> 部員数 3,000人 全国大会入賞</p> <p><スローガン> 高校サッカーを盛り上げよう!</p>
2014年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高校サッカー選手権大会栃木大会の運営 ・技術・審判の質の向上 ・男子部・女子部の連携強化 ・栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化(試合結果速報等) ・プリンスリーグ関東への本県代表参入 ・キッズ委員会との連携
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高校サッカー選手権大会栃木大会 ・技術・審判の研修会(できるところから) ・ユースリーグ参加チーム増加(複数チーム含む) ・プリンスリーグ参入戦に向けての代表チームへの協力体制づくり ・キッズ講習会の開催(キッズ委員会との連携) ・県総体決勝戦の男女共同開催

3. 第3種委員会：中学連盟

2014年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・競技環境の充実 ・指導者の質の向上
	<p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ① U-15リーグに80%以上のチームの参加 ② B級コーチ1名以上、C級コーチ5名以上 指導者講習会への参加率70%以上
	<p><スローガン> より良い育成環境を目指して</p>
2014度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・リーグ戦文化の醸成 ・指導者養成事業及び指導者研修
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグ（1部リーグ・2部リーグ・3部リーグ・4部リーグ） ・公認B級および公認C級コーチ養成講習会 ・10地区での指導者講習会

4. 第4種委員会：少年連盟

2014年度の活動目標	<p>【地域】 JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施に伴う準備を行う。 8地区の少年連盟と県少年連盟との意思疎通のためのパイプ役としての業務を円滑に遂行する</p> <p>【技術】 JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施に伴い技術委員会活動時期・内容変更の準備を行う。 関東レベルで通用する選手の育成 ～将来にわたって活躍できる選手の基礎づくり～</p> <p>【審判】 JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施に伴い審判委員会活動時期・内容変更の準備を行う。 スタンダードの確立</p> <p>【広報】 JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施に伴う準備を行う。 正確な情報を迅速に提供する</p> <p>【フットサル】 JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施に伴う準備を行う。 社会人から少年連盟（キッズ）まで、連携した普及活動の確立 フットサル研修会の開催方法を、県フットサル委員会と協力して検討 審判・ルール・指導・普及 等</p> <p>【キッズ】 JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施に伴う準備を行う。 県内8地区のキッズ委員会の立ち上げと人材確保 県・地区技術委員会の中でのキッズからの一貫指導体制の確立 各地区での指導者養成</p>
	<p><数値目標></p> <p>【地域】 各種申込書提出締め切り日の厳守</p> <p>【技術】 関東選抜大会ベスト4以上</p> <p>【審判】 少年連盟から2級を2人つくる</p>
	<p><スローガン> 【技術】 プレーの質を追求しよう 【審判】 基本に忠実に 【広報】 正確・迅速</p>
2014度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<p>【地域】 ①全日本少年サッカー大会開催時期移行に向けた準備の前年として、2015年の計画の立案に参画する。 ②各地区大会の円滑な運営 ③地区トレセンと県トレセンとのパイプ役</p>

	<p>④各地区から出た意見の県少年連盟への吸い上げる。</p> <p>【技術】①全日本少年サッカー大会開催時期移行の前年であるので移行実施に向けた準備を行う。 ②県トレセン活動の充実 ・トレーニングの質の向上 ③指導者の質の向上 ・全国レベルのゲーム分析 ・本県の課題抽出 ・指導者講習会の設定と積極的参加</p> <p>【審判】①全日本少年サッカー大会開催時期移行の前年であるので移行実施に伴う準備を行う。 ②各地区ごとの審判研修・実技研修の充実 ③3級インストラクターの育成 ④県審判トレセンへの参加 ⑤県派遣審判への協力</p> <p>【広報】①全日本少年サッカー大会開催時期移行の前年であるので移行実施に伴う準備を行う。 ②大会運営者・企業との円滑な情報連携</p> <p>【フットサル】①全日本少年サッカー大会開催時期移行の前年であるので移行実施に伴う準備を行う。 ②少年サッカー連盟フットサル研修会の開催</p> <p>【キッズ】①全日本少年サッカー大会開催時期移行の前年であるので移行実施に伴う準備を行う。 ③県・地区技術委員会との連携</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<p>【地域】①県大会予選のリーグ戦導入の準備 ②地域リーグ戦の活性化 ③地区の優秀な選手を漏れなく県に推薦する ④地区の理事会の活性化</p> <p>【技術】①地区トレセン活動の活性化（伸びた選手は県トレセンへ推薦） ②全日本少年サッカー大会県大会での優秀選手選出 ③関東トレセンマッチデー（他県の選手のレベル・戦術分析）</p> <p>【審判】①審判研修（3級以上）の定期的開催 ②他連盟審判員との交流 ③技術と審判のすり合わせのための研修会開催 ④2級審判員育成のためのエリートプログラムの作成</p> <p>【キッズ】①地区開催フェスティバル ②地区開催アカデミー（U-9） ③地区主催キッズリーダー講習会</p>

5. 女子委員会：女子連盟

<p>2014年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・12～13へのパイプ作り（マッチデー） ・15年代の強化（トレセン強化） ・初心者へのアプローチ（グラスルーツ） ・国体への参加選手の強化、関ブロの成功 <p><数値目標> マッチデー 3回 グラスルーツ 2回</p> <p><スローガン> さあ！始めよう9年後の本国体に向けてできること。</p>
<p>2014度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4種の12と女子の13の交流の場を作り、継続へ繋げる。 ・女子登録15のチームのトレセン参加率引き上げと強化 ・初心者へのアプローチとしてワンデーやグラスルーツを行う ・国体への参加協力の徹底と大学生の参加確保への協力 関東ブロックでの活躍
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・U-13マッチデー ・グラスルーツ（2回） ・ワンデーサッカークリニック ・国体ブロ

6. クラブユース連盟

2014年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関東リーグへの進出（各年代別強化） ・帯同審判の質の向上
	<p><数値目標> 帯同審判の講習会に100%のチーム参加</p> <p><スローガン> 未来を担う選手たちと共に！ (高めあい・競い合い・認め合う)</p>
2014度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグを含めU-14の強化 ・リーグ戦・ベスト8までの帯同審判の向上
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・各チームU-14の強化 ・帯同審判の講習会

7. シニア委員会：シニア連盟

2014年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア連盟の組織化 ・未登録チームの協会登録強化 ・ねんりんピック栃木2014開催におけるチーム派遣及び運営
	<p><数値目標> ねんりんピック出場チームを県内で3チーム出場を目指す。</p> <p><スローガン> ねんりんピック2014開催の成功</p>
2014度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア委員会の組織の強化 ・シニアリーグの活性（各年代40、50、60） ・2014ねんりんピック開催に向けての組織、運営
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア委員会の地域のメンバー選出 ・シニアサッカー選手権大会（0-40、0-50）9月 ・シニアサッカーリーグ（0-40、0-50）5月～2月 ・ねんりんピック栃木2014 10月4日～6日

8. 技術強化委員会

2014年度の活動目標	<p>別紙技術委員会ミッションの3年目にあたる。 引き続き技術委員会の3部門ごとに発展的に目標達成に向けて努力していくとともに、3部門が連携し合って県の技術の総合力を高めていけるようにする。</p>
	<p><数値目標> 技術アクション1stステージ（2012-2017）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①世界で通用する選手の輩出（5年以内に日本代表を輩出する） ②県の代表チームが常に関東Aクラス又は全国ベスト8以上 ③サッカー人口2%計画（プレーヤーが約4万人へ：現在の2倍） <p><スローガン> 栃木から世界へ</p>
2014度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・トレセン改革（選手・指導者双方向の質の向上） ・U14韓国遠征・交流、大学選抜韓国遠征 ・国体チームのサポート（チームと各種別の連携強化） ・ゲーム環境の整備へのサポート（リーグ戦の推進） ・指導者養成及び研修会の強化 ・女子育成のサポート強化 ・キッズとの連携強化 ・地区の育成強化のサポート
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の内容と同じ。 ・トレセン活動のサポート（巡回指導等指導体制の強化） ・指導者講習会の充実 ・地区リーグ及びトレセン活動の推進、指導者講習会

9. フットサル委員会：フットサル連盟

<p>2014年度の活動目標</p>	<p>数年前まで、フットサルにおける本県は「関東の後進県」の一つに挙げられていた。しかし男女の栃木県リーグが本格的に始まり、フットサル連盟も順調に動き出したことなどから、フットサル人口が多い首都圏のチームを追従する存在にまではなった。</p> <p>しかしここ数年は、フットサル事業の根幹を成す男女社会人チーム数の登録数の伸び悩みが課題として上がってきている。社会人チームの減少は、本県のフットサル人口の減少に大きく影響してくるため、長中期の重要課題としてフットサルの普及振興をより厚みのあるものとする必要がある。</p> <p><数値目標> 男女一般チーム登録を前年度の28チームから増加させる</p> <p><スローガン> 再興 栃木のフットサル</p>
<p>2014度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)</p>	<p>①男女栃木県リーグのチーム数増加と安定稼働 ②U-15など各年代におけるフットサル大会の安定運営 ③普及事業の促進 ④県内におけるフットサルのPR ⑤審判員の育成</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<p>①栃木県フットサルリーグ ②全日本フットサル選手権栃木大会 ③全国選抜フットサル大会 ④栃木県女子フットサルリーグ ⑤全日本女子フットサル選手権大会栃木県予選 ⑥全国女子選抜フットサル大会 ⑦年代別各カテゴリーのフットサル大会 (U23、U18、U15) ⑧各種普及イベント</p>

10. 審判委員会

<p>2014年度の活動目標</p>	<p>①各種別・各連盟との連携により審判員・並びに指導者の育成強化を図り、指導システムを確立する。(短期) ②審判トレセン(ユース審判員の育成)を充実し、審判員の技術、知識、体力、パーソナリティの向上を目標に各連盟から強化審判員を輩出させる。(短、中期) ③日本、関東に通じる審判員を育成強化し、県独自の審判指導体制、育成システムを構築させる。(長期) ④WEB登録を周知徹底させ、ホームページの活用から取得講習会並びに更新講習会を充実させる。(短期)</p> <p><数値目標> 審判員登録数を1級 7名、2級 60名、3級 500名、4級 5000名、フットサル 700名、女子 10名を目標に育成する。(中期、長期)</p> <p><スローガン> THE CHALLENGE TO REFEREE FRIEND'S DREAM (審判仲間の夢への挑戦)</p>
<p>2014度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)</p>	<p>(1種) ①2級審判員2名、3級インストラクター1名の輩出候補者の選出と受験時期を見据えた育成をする。 ②中堅審判員研修会の充実 35歳以上&3級取得後5年以上の審判員を対象に実技研修会を実施して技術向上を図る。</p> <p>(2種) 審判トレセンの充実(ユース審判員、高校女子審判員)</p> <p>(3種) ①審判員の養成。具体的には、2級以上の審判員を栃木県の各地域に確保し、地域の審判強化の中心として活躍できるようにする。 ②3種審判講習会の充実。具体的には、現状として、年に2回行われている講習会の充実を図る。</p> <p>(4種) ①全地区において4級帯同審判員対象の審判研修会・実技研修会を実施。 ②年2~3回の3級審判員研修会を実施する。 ③審判と技術合同ですり合わせの研修会を実施する。</p>

	<p>(女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①現在の3・4級審判委員のフォローアップ研修会を実施する。(練習試合、連盟内トレセンを利用) ②4級審判より3級審判を1名養成する。 (4級資格取得講習会より3級審判候補としてをピックアップする) ③各チームから一人の女子審判員を養成する。 <p>(大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①各大学は4級審判員資格を最少3名取得させ、4級の更新者を最少2名確保する。 ②4級審判取得講習会並びに審判実技研修会を開催する。 <p>(シニア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①各チームに、審判資格取得者を4名以上確保する。 ②シニアの各カテゴリー(0-40から0-70まで)において、最新のルールを正しく理解させ、年1回以上研修会を行う。 <p>(クラブ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①2級審判員を目指す若手3級審判員を発掘する。 ②3級インストラクター1名を増員する。 ③カテゴリーを越えた審判員活動機会に積極的に参加させ他のカテゴリーの審判員との交流を図る。 <p>(フットサル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①フットサル審判員の養成と確保(特に若手、女性) ②フットサル審判員の資質の向上を図る。 ③新たに1級1名、2級2名、3級5名の誕生を目指す。 ④3級昇格審査会、4級取得講習会を充実する。(特に3級昇格審査会) ⑤2級3級4級更新講習会を充実する。 ⑥2級3級対象の審判研修会を実施する。(1級審判員を講師に迎えての実施) ⑦リーグ、各競技会の審判員及びインストラクターを派遣する。 <p>(指導・育成・インストラクター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①6回の審判トレセン、年4回のユース審判研修会を実施する。 ②3級審判員フォローアップ研修会を実施する。 ③2級・3級審判員を強化、増員する。(カテゴリーA：1名、カテゴリーB：2名を目標) ④インストラクターを増員(SI2：5名、SI3：20名)する。 ⑤審判トレセンを充実させ、上級審判員を誕生させる。 (審判育成システムを工夫し審判カルテの導入、各級に応じた指導体制の確立、ユース審判員、女子審判員の普及育成を図り発掘する。) <p>(競技部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①kickoffサイトの有効利用 関東主催大会に派遣する審判員を各カテゴリー毎に選出・登録し、kickoffに登録して審判割当を実施する。 ②企画委員への審判割当の公開 TFAのGmailに審判割当を送信して企画委員に公開することで、インストラクターの派遣や情報公開に繋げる。
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<p>(1種)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県社会人リーグや天皇杯予選などを使用して実施する。 ・1種主催の研修会の開催 <p>(2種)</p> <p>ユース審判員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4級審判員取得講習会をインターハイ県予選決勝戦時に実施する。 ・各県予選会にユース審判員を割当てる。 ・全日本少年サッカー大会へ派遣する。 <p>高校女子審判員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JFAによる都道府県審判トレーニングセンターを利用する。 ・JFAによる女子審判員育成・普及に関わる講習会・研修会を利用する。(上記2つを4級審判員資格取得講習会として扱う。) <p>(3種)</p> <p><研修会実施時期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月・・・中学校県新人戦の最終日、準決勝と決勝の時、同時に実施。 ・2月・・・下野杯中学生サッカー大会の準々決勝の日、4試合で実施 講習内容は、ルール解説、試合観戦(割り当て者もいる)、質疑応答、技術トレーニング。これらの、内容を、更に充実させると共に、情報交換の場としてネットワークを密にする。 <p><講習会における目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・審判として、「為すべきこと」を確認する機会とする。

- ・県内各地、現場で審判に関する内容の疑問や質問等をすくいあげる場とする。
 - ・審判委員の資質を大きく秘めている者を発掘する、機会とする。
 - ・「仲間意識」を確認して、サッカーの魅力を再確認できる、機会とする。
- (4種)
- ・各地区から推薦された派遣審判員をカテゴリー分けする。
 - ・カテゴリーに準じた審判を割当てる。
 - ・2級審判育成プログラム、3級インストラクター育成プログラムの策定。4種所属の審判員参加の審判トレセンを実施する。
- (女子)
- ・現在の3・4級審判委員のフォローアップ研修会を実施する。
(練習試合、連盟内トレセンを利用)
 - ・4級審判より3級審判を1名養成する。
(4級資格取得講習会より4級審判をピックアップする)
- (大学)
- ・大学のリーグ戦を利用して4級審判取得講習会並びに審判実技研修会を実施する。
- (シニア)
- ・審判の取得・更新を通知で啓発する。
- (クラブ)
- ・クラブ選手権及び高円宮杯、U13、U15リーグ戦において発掘する。
 - ・インストラクター取得講習会の案内を行う。
 - ・社会人リーグやU18リーグへの参加を呼びかける。
- (フットサル)
- ・フットサルの1級審判員を輩出する。
 - ・栃木県フットサルリーグ(1部・2部)への審判員への派遣とインストラクターを派遣する。
 - ・関東フットサルリーグへの審判派遣とインストラクター協力
 - ・バーモントカップ県予選、U18及びU15大会県予選への審判員を派遣する。
 - ・全日本選手権(プーマカップ)栃木県予選へ審判員を派遣する。
 - ・栃木県女性フットサルリーグへ審判員及びインストラクターを派遣する。
- (指導・育成・インストラクター)
- ・1種から4種審判員の合同研修会並びに各級でのフォローアップ研修を設け充実する。
 - ・年度当初に強化審判員を指定する。
 - ・年間80試合にアセッサーを割り当てる。
 - ・年2回のインストラクター研修会を実施し資質向上をする。
 - ・年2回以上の女子トレセンを実施する。
 - ・国際交流プログラムを検討し、技術委員会と連携を図りながら帯同で派遣する機会を設ける。

11. キッズ委員会

<p>2014年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導の拡大 ・地区フェスティバルの充実(年2回以上) ・キッズリーダー講習会の地区開催 ・4種指導者に向けての研修会開催 <p><数値目標> 子どもたち延べ20,000人との交流</p> <p><スローガン> キッズから栃木のサッカーを変えていこう</p>
<p>2014度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導 150回(実質80園・小学校30校) ・各地区フェスティバルや交流戦、大会などの年2回以上開催 ・JFAフェスティバルの内容の検討 ・キッズリーダー講習会の地区開催 ・高校生との交流事業の拡大
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木SCスマイルキャラバン ・栃木県サッカー協会キッズプログラム巡回指導 ・地区主催キッズサッカーフェスティバル ・JFAキッズサッカーフェスティバル ・キッズリーダー養成講習会

栃木SC 2014シーズンメッセージ



監督 阪倉裕二

栃木県サッカー協会をはじめ、県内のサッカーファミリーの皆様には、日頃より栃木SCを温かくご支援いただきましてありがとうございます。

また、この度の支援募金活動につきましては、お忙しい中を当クラブのためにご尽力くださいましたこと、を改めてお礼申し上げます。

2014シーズンより、監督としてこの慣れ親しんだ栃木SCを率いることとなりました。栃木SCに在籍して6年経ち、クラブが目指すべき方向も含めて次の監督になるのは自分だという強い思いがありました。それが実現したことを大変うれしく思います。私自身初めてのJリーグクラブの監督というチャンスをもらい、当然プレッシャーはありますが、その分やりがいも感じています。

私の座右の銘は「challenge (チャレンジ)」であり、今シーズンのクラブスローガンも『挑戦 ～すべては栃木のために～』に決まりました。今シーズンはクラブ、チーム、そして私にとって大変重要なシーズンになることは間違いありません。チャレンジ精神を前面に出して、スタジアムにご来場の皆様に感動していただけるサッカーをお見せし、応援していただく多くの皆様への感謝をピッチ上で表現したいと思います。

当然、選手に対してもチャレンジすることの重要性を伝えています。自分で考え、行動し、その結果を受け止めて、さらにそこで生まれた課題を解消していくという姿勢が選手の能力を引き上げます。そして、なにより大事なのは栃木SCで結果を出そうという野心。ここで成長するんだ、成功するんだという個々人のエネルギーは、必ず良い刺激をチームに与えると思いますし、J1昇格の可能

性を高めることに繋がります。“継続は力なり”という言葉の通り、毎日のトレーニングで地道に続けてきたことは、必ず自分の身になり力となります。選手たちには失敗を恐れず、チャレンジをし続けることを、若手・ベテラン関係なく全員に強く要求しています。選手同士の競争を作り、お互いが切磋琢磨しながら成長していけるチームというのが重要で、そういうチームの雰囲気作りが私の大きな仕事だと考えています。

シーズンオフ中に、クラブの状況を心配する方々から、『栃木はどうなんだ?』、『SCは大丈夫か』という声をいただきました。私はその言葉に対して成績で見返したいという思いが強いですが、監督を任せていただいたからには「J1昇格」を目指します。そのためには選手が一致団結して死に物狂いでトレーニングすることが、毎回大事になると思っています。そのために、私がしっかりとチームを導いていくことが大切になるはず。また、チームスタッフ・選手・クラブスタッフそして、ファン・サポーターの皆様や多くのご支援・ご協力くださる皆様と一枚岩になり、一戦必勝の想いで日々トレーニングに励んで参りたいと思っています。すべては栃木SCに関わる皆様のために、栃木SCは多くの感動をお届けできるシーズンにしてまいります。是非、多くの皆様にスタジアムへご来場いただき、温かいご声援を賜りますようお願い致します。



JFL2014シリーズに向けて

栃木ウーヴァフットボールクラブ
株式会社栃木ウーヴァ
代表取締役 岩原克彦



日頃から、栃木県サッカー協会は皆様には多くのご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。また、2010年に念願のJFL参入を果たし5年目のシーズンを迎えることができました。これも偏に皆様のお力添えの賜物と重ねて御礼申し上げます。

当クラブは地域の人々に支えられ、サッカーを通じ、子どもたちや地域の人々に『夢・希望・感動』を与え、地域に元気と活力をもたらす「人づくり」や「まちづくり」に貢献することをめざしています。

今シーズンは昨年目指したJリーグ準加盟申請が審査継続となっていることを踏まえ①『クラブ事業規模の拡大』②『運営組織の強化』③『チーム力の増強』を図り準加盟の再申請を行い、再度J3への挑戦をまいります。

この改善策の一環として、平成26年2月3日付で株式会社栃木ウーヴァを設立し、従来の運営母体でありますNPO法人栃木アマスタスポーツクラブからの事業移管を行い、事業運営の拡大・強化を図ってまいります。

一方、選手強化は、従来スタッフ不足での待ちの選手補強体制から脱皮。強化専任で茂木が担当し、多田監督のもと昨シーズン終盤から大学や他チーム

への選手発掘に努めた結果、選手層は平均24.4歳と大幅に若返り、選手数も昨年の31名から26名の少数精鋭で戦うこととしました。そして新しくなったチームが、チーム建て直しに残った12名の選手を軸に新加入選手との融合とキャプテン安間、副キャプテン岩城・稲葉に超ベテランの若林・林のコンビが牽引役として、チームスローガンである『全力宣言』(*1)を実践することで、次なるステージを目指します。

また、地域密着活動は、チームスタッフを中心とした平日の活動や従前にも増したより広い地域へ出向いてのサッカースクール実施・各種イベント等への積極参加を推進してまいります。クラブの活動範囲はクラブ発祥の地の栃木市をホームタウンに、小山市・佐野市・足利市・野木町・壬生町の4市2町(岩舟町H26年合併)の栃木県南地域とします。

常に応援してくださる地域の人々に愛され、子どもたちからもリスペクトされるクラブを目指して精進いたします。スポーツを通じた栃木県南地域コンソーシアムの構築が子どもたちの健全育成や地域振興に結び付くと確信しています。今シーズンもご支援宜しくお願い申し上げます。

(*1)【全力宣言】

栃木ウーヴァは地域の皆様の支えで、これまで成り立っているチームです。応援してくださる人々に感謝と恩返しの気持ちを込めて、90分間走り続けることを誓います。



2014シリーズに向けて

ヴェルフェたかはら那須
山本 武則

日頃から、栃木県サッカー協会をはじめ皆様には多くの御支援、御協力を賜り誠にありがとうございます。昨シーズンはリーグ戦クラブ過去最高順位2位で関東リーグを終了しました。リーグ最終戦まで優勝争いをしながら優勝を逃してしまい目標であったJFL昇格をはたすことができませんでした。JFL昇格へ大きく一步前進したシーズンであったと感じました。8月に行われた天皇杯栃木県最終予選（栃木トヨタカップ）では栃木ウーヴァFCに決勝戦で競り負けてしまい2年連続の天皇杯出場はなりませんでしたが10月に長崎で行われた全国社会人サッカー大会に3年振りに出場することができました。1回戦で関西リーグ1位のFC大阪に0-1敗れてしまいましたが地域リーグの強豪と互角に戦えたことはチームにとって自信になったと思います。

今シーズンも全選手がアマチュアで厳しい練習環境の中、MF高橋祐樹がキャプテンとしてチームを引っ張ります。若手とベテランの融合、チーム規律の再確認、などチームとして一つになり子供達や地域の人々に夢や希望を感じてもらえるような試合を披露したいと思います。また、継続してやってきたホームゲーム戦後のサッカー教室開催や地域のイベント協力など地域の皆さんと交流をはかり地域に根づいたクラブになりつつあります。もちろん今後も積極的に地域のイベントに参加し継続していき今よりもっと栃木県北地区のシンボルになれるように活動していきたいです。

2014シーズンの目標は、関東リーグ優勝、JFL昇格、全国社会人ベスト4、天皇杯出場／1回戦突破。自分達の地域の人々に感動や元気を与えられるような地域に愛されるチームを目指して、今シーズンも他のチームには絶対に負けないサッカーにかける情熱（passion）を持ち、一戦一戦最大の情熱（passion）を持って試合をし、仕事・家庭・

練習・生活にベストを尽くして取り組んでいきたいと思います。昨シーズンのトレーニングのテーマは“観る”。今季は“観る～感じるへ”今季のテーマの意味を理解して選手1人1人が少しでもトレーニングでレベルアップし最大限の目標であるJFL昇格を達成できるように頑張りますので2014年も暖かい御声援を宜しくお願いします。



第47回関東社会人 サッカー大会に出場して

フットボールクラブ真岡21
監督 南木 健二

この度我々フットボールクラブ真岡21は、先日行われた第47回関東社会人大会において、茨城1位代表の鹿島さわやかFCをPK戦の末に破り、栃木県勢としては6年ぶりに1回戦を突破することができました。この成果は選手たちの努力は勿論ですが、社会人連盟をはじめ、真岡市、スポンサー、サポーター等、沢山の様々なご支援の賜物です。この場をお借りして、ご協力いただいた全ての皆様に心より御礼申し上げます。

さて今大会への出場は、昨年に引き続き2年連続、チームとしては3度目の関東リーグへの挑戦でした。昨年は1回戦で青梅FC（東京1位）と対戦し、2-3と僅差で敗れたものの自分たちの持ち味が全く出せず、内容的にはとても満足のいくものではありませんでした。

その屈辱を糧に、我々は関東社会人大会で勝利するために「STEP UP!!」というスローガンのもと、個人技術、チーム組織・運営、戦術、個人のパーソナリティ等すべての面においてワンランク上のレベルを目指し、以下のポイントを重点的にトレーニングおよびチーム運営を行ってきました。

- ① チーム全体でのボール保持率の向上
- ② 安定したボール保持からの前進・フィニッシュの精度向上
- ③ オフ・ザ・ボールでの情報収集・状況把握
- ④ チームの組織化による効率的な運営

知事杯優勝や栃木トヨタカップへの出場等が示すとおり、全体的にチームの成長に手応えを感じていましたが、②の課題に対する私の解釈が誤っていたために、もう1歩チームは前進させることができませんでした。私は、チームの県リーグでの戦績において得点数が伸びていたことから、得点力が上がっている＝(イコール)②の課題が改善されていると思っていたのです。しかしそれは、特定の個人の突出した能力により得点数が増えていただけで、チームとしての攻撃の精度や質が向上していた訳ではありませんでした。それが顕著にでてしまったのは、関東社会人の2回戦・tonan前橋サテライト戦でした。この試合は前半、先制点を許したものの、最終ラインからしっかりパスをつなぎ何度も相手ゴール前までいい形でボールを運べました。しかし、そこから中央をしっかり固める相手に対して、外から苦し紛れに中央に放り込むといった単調な攻撃に終始してしまい、相手のDFを慌てさせることはほとんど出来ませんでした。その後はフィジカルと経験、チームの連携、全ての面で上回る相手に押し込まれて、結果0-3で敗戦となりました。県1部リーグ戦中、チームの失点数の多さにばかり目を奪われ、チームの大きな欠点を見落としてしまったことが非常に悔やまれます。

このような点も踏まえ、私が感じる県内の強豪チーム(ヴェルフェ高原、作新大学、栃木SCユース

等)や関東リーグとの1番の大きな差は、選手の個人能力等ではなく、チームを牽引する監督の能力と、チームとして戦おうとする選手の意識の低さだと思っています。

さきに挙げたチームの選手は、勿論選手1人1人の能力は非常に高いですが、特筆すべき点は、その高い能力と労力を惜しみなくチームの方向性に沿って発揮している点だと思います。正直いまの県内の多くのチームでは、監督は雑務を行うことが仕事となり、本来の役割は形骸化しています。チームの戦術やプレースタイルは出場する選手たちの好み色が濃く反映し、調子がいい時は機能しますが、1つ歯車が狂えば連携が崩れていってしまいます。もちろん選手達が日々努力しているのに、監督としての能力を伸ばす努力をしない人が多いのも事実だと思いますが、お互いがチームの勝利という同じ目標に向かっていながら、立場が違うだけで意見がかみ合わなくなることは、非常に残念で仕方ありません。

今回我々が関東社会人の1回戦を突破できた1番の要因は、チームとしての戦いかたをチーム全体で統一できたからだと思います。対戦相手の鹿島さわやかFCに関しては、昨年の関東社会人2回戦(我々に勝った青梅FCと対戦)の視察や春先の練習試合、直前の偵察等で十分なほど情報はありました。そこからお互いの強み・弱みを照らし合わせ、我々の勝利のためには、相手の高さのある攻撃を封じること絶対条件だったため、守備時はゴール前のスペースを埋める3バックに変化する、変則的な1-4-3-3で挑むことを決意しました。しかし直前のテストマッチでは、鹿島さわやかと似たようなチームとばかり試合が組める訳もなく、今回の戦術が全く噛み合わない相手にも同じ戦術で試合をしたため、思い通りに結果が残らず、選手たちからは懐疑的な意見も出ていました。正直途中で戦術変更も視野にいれ何度も考察をし直しましたが結論は変わらず、私は何度も何度も選手たちに、相手の特徴と今回の戦術に至った理由を説明し、それに対するトレーニングを続けました。

選手たちも徐々に諦めたのか(笑)、今回の戦術を前提とした議論がなされるようになり、良い信頼関係を持って試合に挑むことができました。

さて試合のほうですが、前半風上に立った我々は試合を優位にすすめ、立ち上がり9分、左CKから先制に成功しました。しかしその直後、勢い余って前掛かりな一瞬の隙を相手につかれ、直ぐに同点に追いつかれてしまいました。その後は風上を活かし、相手の攻守の切り替えの遅さについて、何度かチャンスを作るも得点に結び付けられず、同点のまま後半に突入します。後半、風下ということもあり、相手のフィジカルと高さを活かした攻撃で押し込まれる時間が長かったものの、相手にゴール前でスペースを与えず、単純な外からの放り込みをDF陣が体を張って跳ね返す時間が続きました。そして耐え続けた後半27分、相手のミス絡みによるゴール前の混戦からボールを押し込み、待望の勝ち越しゴールがうまれました。その後システムを1-4-4-2に変え逃げ切りを図りましたが、迎えた勝利目前のロスタイムに、耐え続けきたDFのマークのずれを突かれ、CKからまさかの同点ゴールを許してしまいました。気落ちして当然の場面でしたが、チームとして想定通り試合を進めてきた我々はメンタル面で優位に立ち、GKのファインセーブ2本、キッカー全員がPKを難なく決め、PK戦ではありますが目標であった関東社会人での勝利をつかみ取ることができました。

監督の思いと選手の願いがガッチリと噛み合い、サッカーで最も大切なチームの統一感を味わえた、間違いなく昨季のベストゲームだったと思います。

この投稿が皆様の目に触れるころは、恐らく26年度のシーズンがスタートしていると思います。我々は今季「挑戦!!」をスローガンに、本格的に関東リーグ昇格を目指し、周囲に影響を与えられるチームに成長するため、チーム一丸となって突き進んでいると思います。私は監督として、選手たちの努力が報われ、チームが目標を達成できるように、昨年以上に選手たちに負けないぐらい努

力していきたいと思います。

最後になりましたが、我々の活動には多くの皆様のご協力が不可欠です。それに対する感謝の気持ちを忘れずに、地域社会へのサッカーの普及を通じ、沢山の人たちに感動や希望を与え、応援して頂けるよう努力していきますので、今後ともご指導、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



第47回栃木県社会人サッカー2部リーグ優勝について

ホンダ栃木フットボールクラブ
小原 洋輔

今シーズン試合日程を終了し、17勝1敗1分で2部リーグ優勝し1部昇格を決めました。

現在、ホンダ栃木サッカークラブは、初心者から大学サッカー経験者まで年齢20~35才の選手が所属し、1部昇格、1部で常勝できるチーム作りを目標に週3回トレーニングをして活動を行ってきました。

チーム内に、個人能力が特出した選手がいるわけではない為、組織力を上げる事に重点を置き今期は早期より選手間でのミーティングを重ねチーム戦術、トレーニングメニューを考え実践し、遠征を含め多くのトレーニングマッチを行い、個々のチーム戦術理解度高めチーム作りを進めてきました。

結果、今期リーグ総得点104点もの得点を奪う事が出来、チームの進化が優勝という結果に繋がったと感じております。

来シーズンに向けては更に技術、精度の向上が必要でありこの1年間で築いて来た土台を更に進化させ、1部リーグで常勝できる集団になる事を目標とし活動中です。

見合わせる大学も出るなど、やや活気が失われている状況です。

一方、技術委員会および各大学チーム指導者のご尽力により、大学リーグ選抜チームを組成し強化練習会・試合を行い、また韓国遠征事業を実施するなど、個人の競技力向上と各大学チーム活動の充実を図り、首都圏の諸学生連盟にも引けを取らない積極的な活動をしています。よって栃木県内の高校生プレーヤーが県内の大学に進学しサッカー部に入部していただくことを心より期待しております。

最後になりましたが、本学サッカー部の栃木県大学サッカーリーグ優勝に際し、器用さは無いものの直向に戦った部員全員に、それを支えてくれたマネージャーおよびご関係者の皆様に、そしてチームを束ねてくれたコーチに心からお祝いと感謝を申し上げます。



第16回栃木県大学サッカーリーグ優勝に際して

白鷲大学サッカー部
監督 矢島 哲

この度、平成25年度第16回栃木県大学サッカーリーグ（実施期間：平成25年10月20日より12月8日）において白鷲大学サッカー部が優勝することができました。

まず、私自身が本年度リーグの取りまとめ役をさせていただきましたことから、大会運営にご協力賜りました学生スタッフ、顧問ならびに審判員の皆様、また応援をいただいた皆様方に厚く御礼を申し上げます。

栃木県大学サッカーリーグは社会人連盟のご理解と大学・高専諸先生方のご尽力により平成10年に誕生し今回で16回目となりましたが、近年は栃木・茨城・群馬の大学で構成される北関東大学サッカーリーグとの並行実施や、大学を取り巻く環境の変化がもたらすチーム事情によりリーグ参加を

第15回日本フットボールリーグ戦績表

	長野	讃岐	相模原	町田	ホンダ	佐川印刷	金沢	秋田	ソニー	武蔵野	琉球	YSCC	藤枝	福島	HOYO	MIO	栃木ウ	ロッキ	勝点	得点	失点	点差	順位
AC長野パルセイロ	H 1 Δ 1 A 0 Δ 0	1 ○ 0 0 ● 2	5 ○ 1 4 ○ 0	1 Δ 1 3 ○ 1	2 ○ 1 1 Δ 1	2 ○ 1 1 Δ 1	2 ○ 1 1 Δ 1	1 ○ 0 1 Δ 1	5 ○ 0 2 ○ 1	1 ○ 0 1 Δ 1	1 ○ 0 1 Δ 1	1 ○ 0 1 Δ 1	3 ○ 1 1 ● 2	1 ○ 0 2 ○ 1	2 ○ 0 3 ○ 1	2 Δ 2 1 ○ 5	2 Δ 2 3 ○ 2	1 ○ 0 2 ○ 4	72	61	25	19	1
オリエント青森	H 0 Δ 0 A 1 Δ 1	1 ○ 0 0 ● 1	0 ● 1 2 ○ 0	0 ● 1 2 ○ 0	0 Δ 0 1 ● 3	0 Δ 0 1 ● 3	0 Δ 0 1 ● 3	0 Δ 0 1 ● 3	0 Δ 0 1 ● 3	0 Δ 0 1 ● 3	0 Δ 0 1 ● 3	0 Δ 0 1 ● 3	0 Δ 0 1 ● 3	0 Δ 0 1 ● 3	0 Δ 0 1 ● 3	0 Δ 0 1 ● 3	0 Δ 0 1 ● 3	0 Δ 0 1 ● 3	68	49	27	13	2
SC相模原	H 2 ○ 1 A 0 ● 1	0 ● 1 1 ○ 0	1 ● 2 2 ○ 1	1 ● 2 2 ○ 1	1 ● 2 2 ○ 1	1 ● 2 2 ○ 1	1 ● 2 2 ○ 1	1 ● 2 2 ○ 1	1 ● 2 2 ○ 1	1 ● 2 2 ○ 1	1 ● 2 2 ○ 1	1 ● 2 2 ○ 1	1 ● 2 2 ○ 1	1 ● 2 2 ○ 1	1 ● 2 2 ○ 1	1 ● 2 2 ○ 1	1 ● 2 2 ○ 1	1 ● 2 2 ○ 1	61	58	42	5	3
FC町田ゼレビア	H 0 ● 4 A 1 ● 5	2 ○ 1 1 ○ 0	1 ● 2 0 ● 4	1 ● 2 0 ● 4	1 ● 2 0 ● 4	1 ● 2 0 ● 4	1 ● 2 0 ● 4	1 ● 2 0 ● 4	1 ● 2 0 ● 4	1 ● 2 0 ● 4	1 ● 2 0 ● 4	1 ● 2 0 ● 4	1 ● 2 0 ● 4	1 ● 2 0 ● 4	1 ● 2 0 ● 4	1 ● 2 0 ● 4	1 ● 2 0 ● 4	1 ● 2 0 ● 4	61	51	44	5	4
Honda FC	H 1 ● 3 A 1 Δ 1	0 ● 2 0 ● 2	2 ○ 1 2 ○ 0	2 ○ 1 2 ○ 0	2 ○ 1 2 ○ 0	2 ○ 1 2 ○ 0	2 ○ 1 2 ○ 0	2 ○ 1 2 ○ 0	2 ○ 1 2 ○ 0	2 ○ 1 2 ○ 0	2 ○ 1 2 ○ 0	2 ○ 1 2 ○ 0	2 ○ 1 2 ○ 0	2 ○ 1 2 ○ 0	2 ○ 1 2 ○ 0	2 ○ 1 2 ○ 0	2 ○ 1 2 ○ 0	2 ○ 1 2 ○ 0	53	54	38	11	5
佐川印刷SC	H 1 Δ 1 A 1 ● 2	3 ○ 1 0 Δ 0	2 ○ 1 0 Δ 0	2 ○ 1 0 Δ 0	2 ○ 1 0 Δ 0	2 ○ 1 0 Δ 0	2 ○ 1 0 Δ 0	2 ○ 1 0 Δ 0	2 ○ 1 0 Δ 0	2 ○ 1 0 Δ 0	2 ○ 1 0 Δ 0	2 ○ 1 0 Δ 0	2 ○ 1 0 Δ 0	2 ○ 1 0 Δ 0	2 ○ 1 0 Δ 0	2 ○ 1 0 Δ 0	2 ○ 1 0 Δ 0	2 ○ 1 0 Δ 0	53	36	25	8	6
ウェーゲン金沢	H 1 ● 2 A 1 ● 2	0 ● 1 2 ● 3	2 Δ 2 1 Δ 1	2 Δ 2 1 Δ 1	2 Δ 2 1 Δ 1	2 Δ 2 1 Δ 1	2 Δ 2 1 Δ 1	2 Δ 2 1 Δ 1	2 Δ 2 1 Δ 1	2 Δ 2 1 Δ 1	2 Δ 2 1 Δ 1	2 Δ 2 1 Δ 1	2 Δ 2 1 Δ 1	2 Δ 2 1 Δ 1	2 Δ 2 1 Δ 1	2 Δ 2 1 Δ 1	2 Δ 2 1 Δ 1	2 Δ 2 1 Δ 1	50	60	48	11	7
ブラウブリック秋田	H 1 Δ 1 A 0 ● 1	2 ○ 1 1 ○ 1	2 ○ 1 1 ○ 1	2 ○ 1 1 ○ 1	2 ○ 1 1 ○ 1	2 ○ 1 1 ○ 1	2 ○ 1 1 ○ 1	2 ○ 1 1 ○ 1	2 ○ 1 1 ○ 1	2 ○ 1 1 ○ 1	2 ○ 1 1 ○ 1	2 ○ 1 1 ○ 1	2 ○ 1 1 ○ 1	2 ○ 1 1 ○ 1	2 ○ 1 1 ○ 1	2 ○ 1 1 ○ 1	2 ○ 1 1 ○ 1	2 ○ 1 1 ○ 1	50	48	45	11	8
ソニー仙台FC	H 2 ○ 1 A 0 ● 5	1 ○ 0 0 ● 2	0 ● 2 0 ● 2	0 ● 2 0 ● 2	0 ● 2 0 ● 2	0 ● 2 0 ● 2	0 ● 2 0 ● 2	0 ● 2 0 ● 2	0 ● 2 0 ● 2	0 ● 2 0 ● 2	0 ● 2 0 ● 2	0 ● 2 0 ● 2	0 ● 2 0 ● 2	0 ● 2 0 ● 2	0 ● 2 0 ● 2	0 ● 2 0 ● 2	0 ● 2 0 ● 2	0 ● 2 0 ● 2	50	33	34	6	9
横河武蔵野FC	H 0 Δ 0 A 0 ● 1	2 ● 3 0 ● 1	0 ● 4 1 ○ 0	0 ● 4 1 ○ 0	0 ● 4 1 ○ 0	0 ● 4 1 ○ 0	0 ● 4 1 ○ 0	0 ● 4 1 ○ 0	0 ● 4 1 ○ 0	0 ● 4 1 ○ 0	0 ● 4 1 ○ 0	0 ● 4 1 ○ 0	0 ● 4 1 ○ 0	0 ● 4 1 ○ 0	0 ● 4 1 ○ 0	0 ● 4 1 ○ 0	0 ● 4 1 ○ 0	0 ● 4 1 ○ 0	49	36	36	-2	10
FC琉球	H 0 ● 1 A 0 ● 1	2 ○ 1 0 ● 3	1 ● 2 1 ○ 0	1 ● 2 1 ○ 0	1 ● 2 1 ○ 0	1 ● 2 1 ○ 0	1 ● 2 1 ○ 0	1 ● 2 1 ○ 0	1 ● 2 1 ○ 0	1 ● 2 1 ○ 0	1 ● 2 1 ○ 0	1 ● 2 1 ○ 0	1 ● 2 1 ○ 0	1 ● 2 1 ○ 0	1 ● 2 1 ○ 0	1 ● 2 1 ○ 0	1 ● 2 1 ○ 0	1 ● 2 1 ○ 0	46	47	51	-1	11
Y.S.C.C.	H 1 Δ 1 A 1 ● 3	2 ● 4 0 ● 1	1 ● 4 1 ○ 0	1 ● 4 1 ○ 0	1 ● 4 1 ○ 0	1 ● 4 1 ○ 0	1 ● 4 1 ○ 0	1 ● 4 1 ○ 0	1 ● 4 1 ○ 0	1 ● 4 1 ○ 0	1 ● 4 1 ○ 0	1 ● 4 1 ○ 0	1 ● 4 1 ○ 0	1 ● 4 1 ○ 0	1 ● 4 1 ○ 0	1 ● 4 1 ○ 0	1 ● 4 1 ○ 0	1 ● 4 1 ○ 0	39	45	56	-6	12
藤枝MYFC	H 2 ○ 1 A 0 Δ 0	1 ○ 0 2 Δ 2	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	36	40	58	-7	13
福島ユナイテッドFC	H 0 ● 1 A 0 ● 1	1 ● 2 0 ● 2	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	2 Δ 2 1 ● 3	34	35	42	-10	14
HOYO大分	H 1 ● 3 A 0 ● 2	1 ● 3 1 ○ 0	0 ● 1 2 ● 3	0 ● 1 2 ● 3	0 ● 1 2 ● 3	0 ● 1 2 ● 3	0 ● 1 2 ● 3	0 ● 1 2 ● 3	0 ● 1 2 ● 3	0 ● 1 2 ● 3	0 ● 1 2 ● 3	0 ● 1 2 ● 3	0 ● 1 2 ● 3	0 ● 1 2 ● 3	0 ● 1 2 ● 3	0 ● 1 2 ● 3	0 ● 1 2 ● 3	0 ● 1 2 ● 3	32	32	45	-11	15
MIOびわこ滋賀	H 1 ● 5 A 2 Δ 2	0 ● 4 1 ● 2	0 ● 4 1 ● 2	0 ● 4 1 ● 2	0 ● 4 1 ● 2	0 ● 4 1 ● 2	0 ● 4 1 ● 2	0 ● 4 1 ● 2	0 ● 4 1 ● 2	0 ● 4 1 ● 2	0 ● 4 1 ● 2	0 ● 4 1 ● 2	0 ● 4 1 ● 2	0 ● 4 1 ● 2	0 ● 4 1 ● 2	0 ● 4 1 ● 2	0 ● 4 1 ● 2	0 ● 4 1 ● 2	30	40	56	-11	16
栃木ウエヴァFC	H 2 ● 3 A 2 ○ 0	1 ● 2 0 ● 1	1 ● 2 0 ● 1	1 ● 2 0 ● 1	1 ● 2 0 ● 1	1 ● 2 0 ● 1	1 ● 2 0 ● 1	1 ● 2 0 ● 1	1 ● 2 0 ● 1	1 ● 2 0 ● 1	1 ● 2 0 ● 1	1 ● 2 0 ● 1	1 ● 2 0 ● 1	1 ● 2 0 ● 1	1 ● 2 0 ● 1	1 ● 2 0 ● 1	1 ● 2 0 ● 1	1 ● 2 0 ● 1	30	34	66	-19	17
ベルガモFC	H 0 ● 4 A 0 ● 1	1 ● 2 1 ● 2	2 ○ 0 0 Δ 0	2 ○ 0 0 Δ 0	2 ○ 0 0 Δ 0	2 ○ 0 0 Δ 0	2 ○ 0 0 Δ 0	2 ○ 0 0 Δ 0	2 ○ 0 0 Δ 0	2 ○ 0 0 Δ 0	2 ○ 0 0 Δ 0	2 ○ 0 0 Δ 0	2 ○ 0 0 Δ 0	2 ○ 0 0 Δ 0	2 ○ 0 0 Δ 0	2 ○ 0 0 Δ 0	2 ○ 0 0 Δ 0	2 ○ 0 0 Δ 0	29	26	47	-11	18

第47回関東サッカーリーグ1部戦績表

チーム名	FC KOREA	V那珂	tonan前橋	東京23 FC	エリスFC	日立	流通大FC	さいたまSC	ドラゴンズ	東邦チタニウム	勝	分	負	勝点	得点	失点	点差	順位
FC KOREA		○3-1	●1-2	○2-1	○1-0	△1-1	○1-0	○4-0	○1-0	○3-1	12	4	2	40	31	14	17	1
ヴェルフェ たかはら那珂	●0-2		△0-0	△2-2	△0-0	△1-1	○5-1	○4-1	○3-2	○2-1	11	5	2	38	32	17	15	2
tonan前橋	△1-1	●0-1		○4-2	●1-2	○2-0	△2-3	△2-2	○6-0	△0-0	9	4	5	31	32	21	11	3
東京23 フットボールクラブ	●2-3	●0-1	●2-3		○5-1	●2-3	△0-0	○5-1	○3-1	○3-1	9	2	7	29	50	32	18	4
エリスFC	○2-0	●1-2	●1-3	○5-2		●1-3	○3-1	○4-0	○6-0	△0-0	9	2	7	29	34	23	11	5
日立	○0-1	△1-1	○0-1	●1-5	●0-1		○3-0	○2-1	○3-1	○3-1	6	6	6	24	20	28	-2	6
流通経済大学	○0-1	●0-4	●1-2	○0-5	○1-0	●0-3		△1-1	○3-1	○3-1	7	3	8	24	26	34	-8	7
さいたまサッカークラブ	△0-0	●1-2	○3-1	●1-3	●1-2	○2-1	△1-1		○1-0	○2-0	6	5	7	23	24	31	-7	8
クラブ・ドラゴンズ	○0-1	●2-3	○0-6	●1-5	○0-6	●2-3	●1-3	●0-1		○3-0	3	0	15	9	23	54	-31	9
東邦チタニウム	○0-3	●1-2	○1-0	○2-4	●1-3	△2-2	○0-2	●2-3	○0-3		1	3	14	6	17	41	-24	10

※勝ち点:○勝ち3点、△引分け1点、●負け0点

第47回栃木県社会人サッカーリーグ1部戦績表

チーム名	足利御厨	FC真岡21	Jバス宇都宮	宇都宮FC	足利クラブ	AS CASA	BAJELVO矢崎	栃木教員FC	勝点	得点	失点	点差	順位
足利御厨		1 △ 1	0 △ 0	2 0 1	1 ● 2	2 0 1	2 0 0	3 △ 3	31	32	13	19	1
FC真岡21	1 △ 1		2 ● 4	2 0 0	5 0 1	3 0 2	2 △ 2	1 △ 1	28	36	21	15	2
Jバス宇都宮	0 △ 0	4 0 2		0 ● 1	3 0 1	2 △ 2	4 0 1	1 △ 1	26	28	14	14	3
宇都宮FC	1 ● 2	0 ● 2	1 0 0		4 0 0	4 0 0	0 △ 0	3 0 1	20	28	21	7	4
足利クラブ	2 0 1	1 ● 5	1 ● 3	3 0 4		3 0 2	2 2 0	2 0 0	14	21	34	-13	5
AS CASA	1 ● 2	2 ● 3	2 △ 2	0 ● 4	2 ● 3		4 0 0	0 0 0	11	22	31	-9	6
BAJELVO矢崎	0 ● 2	2 △ 2	0 ● 4	0 △ 0	2 0 0	0 ● 4		1 ● 3	11	11	33	-22	7
栃木教員FC	3 △ 3	1 △ 1	1 △ 1	1 ● 3	0 ● 2	3 0 0	3 0 1		9	17	28	-11	8

第47回栃木県社会人サッカーリーグ(2部)戦績表

チーム名	本田	氏家	揚茜	エストラヤ	古河	JOY	JINKS	オードイス	市貝	鹿沼	かわち	都賀	H.GSB	アレグロ	TRAP	サクラ	宇都宮	東山	ルセール	泉1996	勝点	得点	失点	点差	順位
本田FC		4 0 3	0 ● 1	4 0 1	3 0 1	4 0 2	6 0 1	6 0 0	12 0 1	2 △ 2	5 0 0	4 0 0	8 0 1	6 0 0	5 0 2	5 0 1	7 0 5	3 0 0	16 0 0	9 0 0	52	109	21	88	1
氏家クラブ	3 ● 4		0 ● 2	4 0 1	5 ● 6	5 0 0	5 0 3	6 0 2	3 0 2	3 0 1	4 △ 4	5 0 1	6 0 0	6 0 0	3 0 2	4 0 2	4 0 1	5 0 0	3 0 0	8 0 0	46	82	31	51	2
揚茜クラブ	1 0 0	2 0 0		2 ● 3	1 △ 1	5 0 3	2 0 0	5 0 0	1 0 0	0 ● 2	2 0 1	3 0 2	6 0 0	4 0 0	1 △ 1	4 0 0	2 △ 2	4 0 1	6 0 1	14 0 0	45	65	17	48	3
エストラヤ	1 ● 4	1 ● 4	3 0 2		3 0 2	1 △ 1	2 0 0	2 0 0	2 ● 3	1 0 0	2 △ 2	3 0 0	0 ● 1	2 0 0	2 0 1	1 0 0	4 0 2	4 0 1	3 0 0	3 0 0	41	40	23	17	4
古河スカイ	1 ● 3	6 0 5	1 △ 1	2 ● 3		2 △ 2	2 0 1	4 0 1	2 ● 3	4 0 0	2 △ 2	3 △ 3	10 0 1	7 0 1	9 0 0	3 0 2	9 0 1	5 0 0	3 0 0	2 0 0	40	77	29	48	5
JOY FC	2 ● 4	0 ● 5	3 ● 5	1 △ 1	2 △ 2		5 0 4	2 △ 2	3 0 1	0 ● 2	5 0 1	3 0 0	4 0 2	3 0 1	2 △ 2	2 ● 3	3 0 2	3 0 0	5 0 0	5 0 0	34	53	37	16	6
姿川JINKS	1 ● 6	3 ● 5	0 ● 2	0 ● 2	1 ● 2	4 ● 5		2 ● 3	2 0 1	1 0 0	1 0 0	6 0 2	4 0 3	2 △ 2	8 0 1	1 0 0	2 0 1	4 0 2	5 0 1	6 0 0	34	53	38	15	7
FCオードイス	0 ● 6	2 ● 6	0 ● 5	0 ● 2	1 ● 4	2 △ 2	3 0 2		5 0 3	3 0 2	7 0 2	3 0 1	3 ● 4	3 0 0	2 ● 3	10 0 0	0 ● 3	2 0 0	3 0 0	3 0 0	31	52	45	7	8
市貝クラブ	1 ● 12	0 ● 3	0 ● 1	3 0 2	3 0 2	1 ● 3	1 ● 2	3 ● 5		4 0 2	1 ● 5	1 0 0	3 0 0	2 0 1	2 △ 2	2 △ 2	8 0 1	4 0 0	1 ● 3	5 0 1	29	45	47	-2	9
鹿沼FC	2 △ 2	1 ● 3	2 0 0	0 ● 1	0 ● 4	2 0 0	0 ● 1	2 ● 3	2 ● 4		2 △ 2	0 △ 0	8 0 2	1 ● 2	3 0 1	1 △ 1	2 0 0	7 0 0	2 △ 2	8 0 1	26	45	29	16	10
スポーツかわち	0 ● 5	4 △ 4	1 ● 2	2 △ 2	2 △ 2	1 ● 5	0 ● 1	2 ● 7	5 0 1	2 △ 2		1 △ 1	4 0 3	2 0 0	0 ● 3	4 0 2	1 ● 2	5 0 2	1 △ 1	4 0 1	24	41	46	-5	11
都賀クラブ	0 ● 4	1 ● 5	2 ● 3	0 ● 3	3 △ 3	0 ● 3	2 ● 6	1 ● 3	0 ● 1	0 △ 0	1 △ 1		3 0 1	1 ● 2	3 0 0	2 0 0	2 0 0	5 0 1	2 △ 2	3 0 1	22	31	39	-8	12
H.GSB	1 ● 8	0 ● 6	0 ● 6	1 0 0	1 ● 10	2 0 4	3 0 4	4 0 3	0 ● 3	2 ● 8	3 ● 4	1 ● 3		3 0 1	2 0 0	3 0 2	3 ● 4	3 0 1	3 0 0	3 △ 3	22	38	70	-32	13
アレグロ	0 ● 6	0 ● 6	0 ● 4	0 ● 2	1 ● 7	1 ● 3	2 △ 2	0 ● 3	1 ● 2	2 0 1	0 ● 2	0 0 1	1 ● 3		1 ● 2	4 0 1	2 0 1	0 ● 3	4 0 1	3 0 0	19	24	50	-26	14
TRAP大平	2 ● 5	2 ● 3	1 △ 1	1 ● 2	0 ● 9	2 △ 2	1 ● 8	3 0 2	2 △ 2	1 ● 3	3 0 0	0 ● 3	0 ● 2	2 0 1		0 ● 3	0 ● 1	1 ● 8	4 0 3	2 0 1	18	27	59	-32	15
栃木サクラ	1 ● 5	2 ● 4	0 ● 4	0 ● 1	2 ● 3	3 0 2	0 ● 1	0 ● 10	2 △ 2	1 △ 1	2 ● 4	0 ● 2	2 ● 3	1 ● 4	3 0 0		4 0 1	0 ● 1	4 0 2	3 0 1	17	30	51	-21	16
スポーツ宇都宮	5 ● 7	1 ● 4	2 △ 2	2 ● 4	1 ● 9	2 ● 3	1 ● 2	3 0 0	1 ● 8	0 ● 2	2 0 1	0 ● 2	4 0 3	1 ● 2	1 0 0	1 ● 4		3 0 0	5 0 0	0 ● 3	16	35	56	-21	17
東山FC	0 ● 3	0 ● 5	1 ● 4	1 ● 4	0 ● 5	0 ● 3	2 ● 4	0 ● 2	0 ● 4	0 ● 7	2 ● 5	1 ● 5	1 ● 3	3 0 0	8 0 1	1 0 0	0 ● 3		1 ● 4	0 ● 1	3	21	63	-42	18
ルセール那須	0 ● 16	0 ● 3	1 ● 6	0 ● 3	0 ● 3	0 ● 5	1 ● 5	0 ● 3	3 0 1	2 △ 2	1 △ 1	2 △ 2	0 ● 3	1 ● 4	3 ● 4	2 ● 4	0 ● 5	4 0 1		3 0 1	0	23	72	-49	19
泉1996	0 ● 9	0 ● 8	0 ● 14	0 ● 3	0 ● 2	0 ● 5	0 ● 6	0 ● 3	1 ● 5	1 ● 8	1 ● 4	1 ● 3	3 △ 3	0 ● 3	1 ● 2	1 ● 3	3 0 0	1 0 0	1 ● 3		-2	14	84	-70	20

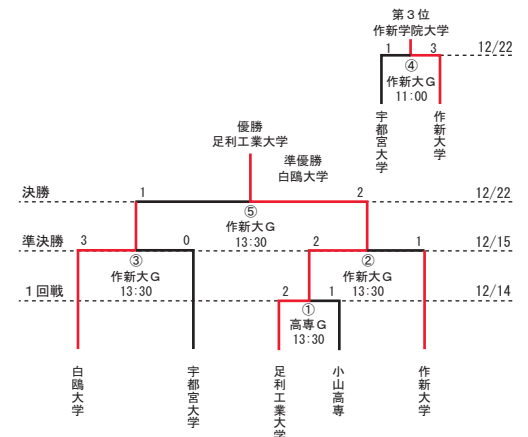
グレーの塗りつぶしに付いては、棄権試合です。負けチームは勝ち点-3している結果です。

平成25年度 第16回栃木県大学サッカーリーグ戦績表

チーム名	白鷲大	作新大	足工大	宇都宮大	小山高専	福祉大	勝	分	負	勝点	得点	失点	点差	順位
白鷲大学		3 0 0	1 △ 1	5 0 2	2 0 0	7 0 0	4	1	0	13	21	3	18	1
作新学院大学	0 ● 3		2 0 1	7 0 0	7 0 2	16 0 0	4	0	1	12	32	6	26	2
足利工業大学	1 △ 1	1 ● 2		5 0 3	2 0 0	13 0 1	3	1	1	10	22	7	15	3
宇都宮大学	2 ● 5	0 ● 7	3 ● 5		4 0 0	16 0 0	2	0	3	6	25	17	8	4
小山工業高等専門学校	0 ● 5	2 ● 7	0 ● 2	0 ● 4		4 0 0	1	0	4	3	6	18	△12	5
国際医療福祉大学	0 ● 7	0 ● 16	1 ● 13	0 ● 16	0 ● 4		0	0	5	0	1	56	△55	6

平成25年度

第10回栃木県大学サッカー新人大会 結果

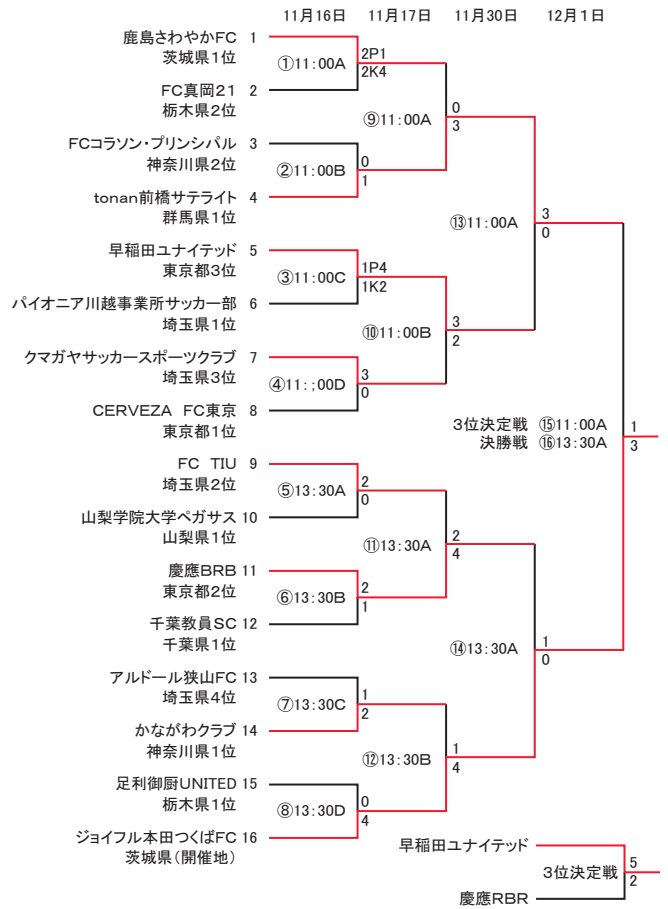
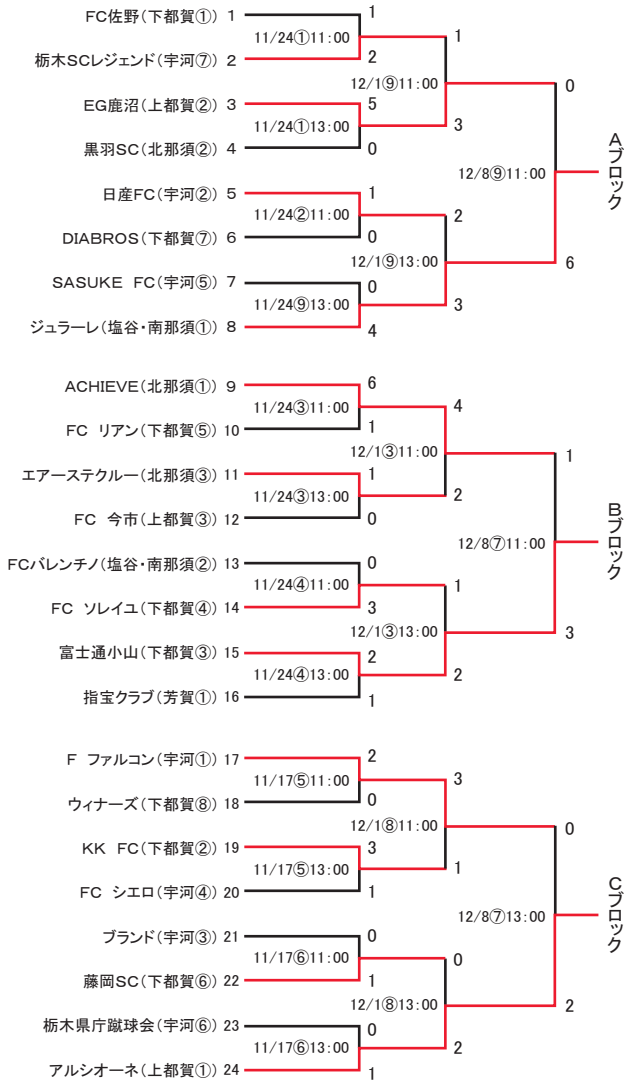


第47回栃木県社会人サッカーリーグ3部決勝大会組合せ

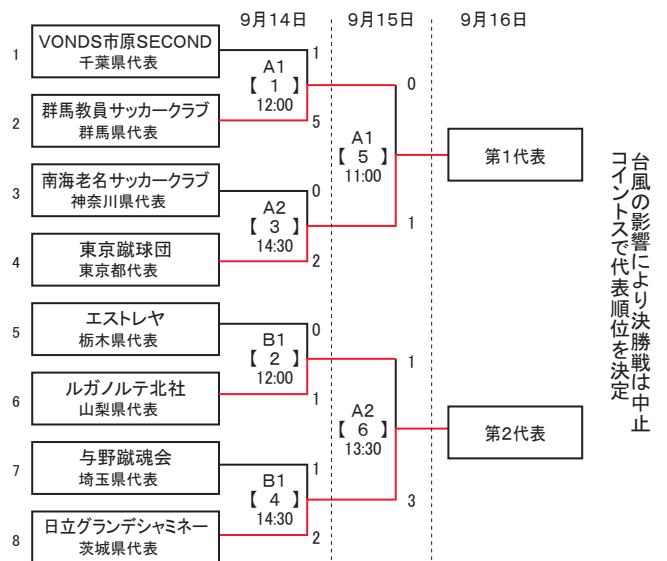
第47回(2013年)関東社会人サッカー大会組合せ

- 開始時間 会場
 11:00 ① 黒羽運動公園(芝)
 13:00 ② 柳田緑地サッカー場
 ③ 真岡勝瓜サッカー場(検索:真岡勝瓜公園)
 ④ 都賀町民グラウンド
 ⑤ 石井緑地サッカー場No4(検索:石井緑地サッカー場)
 ⑥ 石井緑地サッカー場No5(検索:石井緑地サッカー場)
 ⑦ きぬわいわい広場(二ノ宮)
 ⑧ くらいそ運動場(クレー)(検索:くらいそ運動場)
 ⑨ 那珂川河畔公園

- 会場 A...ひたちなか市総合運動公園陸上競技場 ① ⑤ ⑨ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯
 B...ひたちなか市総合運動公園スポーツ広場 ② ⑥ ⑩ ⑫
 C...笠松運動公園陸上競技場 ③ ⑦
 D...笠松運動公園補助競技場 ④ ⑧



第20回全国クラブチームサッカー選手権大会関東大会組合せ表



- 会場 A 群馬県立敷島公園サッカー・ラグビー場
 B 群馬県立敷島公園補助競技場

台風の影響により決勝戦は中止
 コイントスで代表順位を決定

1. 高校連盟より

栃高体連サッカー専門部委員長
小田林 宏至



現在、高校連盟は、63校が県高体連に加盟し、各大会に参加しています。

11月に行われた第92回全国高校サッカー選手権大会栃木大会2次予選会は、インターハイ栃木県予選の上位8チームと、8月に実施した1次予選を勝ち抜いた16チームの併せて24チームが熱戦を展開しました。準決勝は、真岡高校と宇都宮短期大学附属高校、佐野日本大学高校と矢板中央高校の対戦となりました。2試合とも接戦でしたが、宇都宮短期大学附属高校が1対0で、矢板中央高校が2対1で勝ち、それぞれ決勝戦進出を決めました。決勝戦では、矢板中央高校が粘る宇都宮短期大学附属高校を1対0で破り、4年ぶり5度目の優勝を果たし、全国大会への切符を手に入れました。

矢板中央高校は、全国大会で、三重県代表の強豪四日市中央工業高校と接戦を演じ、惜しくも敗れましたが、最後まで諦めない戦いぶりは記憶に新しいところです。

さらに、近年盛り上がりを見せているユースリーグですが、残念ながら本県から来期関東プリンスリーグに出場するチームが無くなってしまいました。ぜひ、本県代表が関東参入戦を勝ち抜いて、関東プリンスリーグ参戦を果たして欲しいものです。

女子部は、9月に行われた第22回栃木県高等学校女子サッカー選手権大会兼第22回全日本高校女子サッカー選手権大会関東地区大会栃木県予選会において、決勝戦で文星女子高校が大田原女子高校を破って優勝し、それぞれ関東地区大会に進出しました。関東地区大会では、大田原女子高校は、1回戦で埼玉県代表の本庄第一高校に敗退、文星女子高校は1回戦千葉県代表の千葉明德高校に勝利しましたが、準々決勝で東京都代表の飛鳥高校に敗れ、両校とも全国への切符を手にはできませんでした。

平成26年1月中旬現在で、本年度の行事は、県高校サッカー新人大会だけとなりました。各チームとも優勝を目指し、熱い戦いが繰り広げられることと思います。

今年度は、インターハイで真岡高校が3位に入賞する活躍を見せましたが、男女ともに、次年度も関東大会、全国大会で本県代表が活躍することを期待しております。

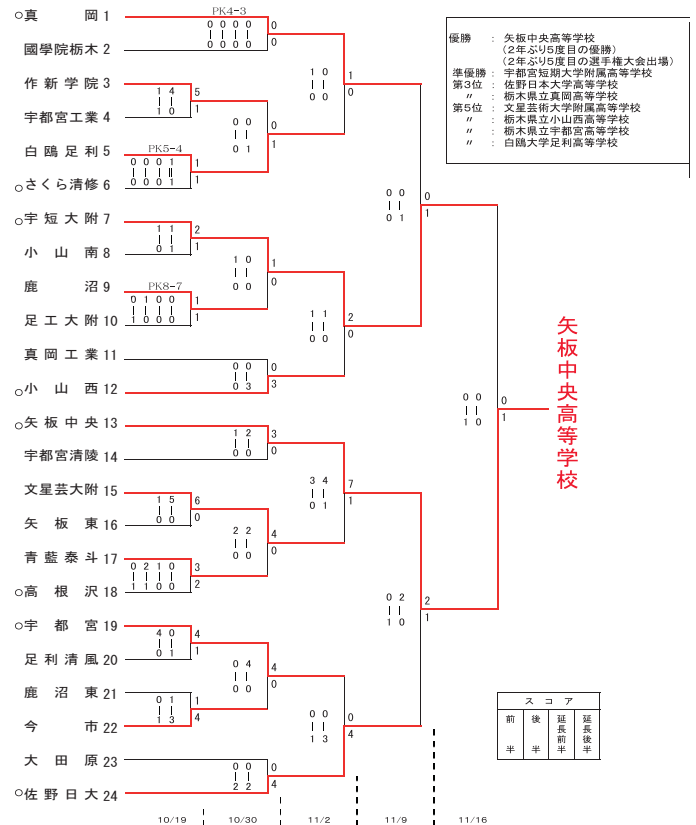
2. 各大会県予選結果 ・本大会に参加して

①選手権大会栃木大会

矢板中央高校(2年ぶり5度目) 全国大会出場

平成25年度 第92回 全国高等学校サッカー選手権大会 栃木大会 結果

平成25年10月19・30日 11月2・9・16日



平成25年度の活動を振り返って

矢板中央高等学校
監督 高橋健二

矢板中央高校の今シーズンの戦績は県新人戦、関東予選と2大会連続で優勝し、順調なスタートを切ることができました。

しかし、夏のインターハイ予選の準決勝で真岡高校に0対4と大敗を喫してしまい、数多くの課題ができました。その課題は主に選手間のコミュニケーションの不足とフィジカルの弱さでした。この課題を克服すべく、選手間でのミーティングの時間を増やし、的確なコーチング力の向上に努め、更にトレーニングの工夫を凝らし連戦に強い体作りを経てチームの再編成を行いました。また、県リーグや練習試合から出てきた反省点の修正を繰り返すことによりチーム全体の成長と選手たちの自信が見えるようになりました。そして、選手権予選準決勝の佐

野日大高校戦では前半で1点を先制された苦しい展開でも選手たちは落ち着いて最後まで諦めることなく戦い、逆転勝利を収めることが出来ました。この勝利により選手たちの精神的な成長を感じる事が出来ました。そして決勝戦でも一進一退の攻防が続きましたが後半は攻め続けるサッカーを貫き勝利を収め、全国高校サッカー選手権大会の出場権を獲得しました。

U-18県リーグ1部リーグでも栃木SCと勝ち点で並んだものの得失点差でかわして優勝、今年度は県新人戦、関東予選、選手権予選と合わせて県内4冠を達成することが出来ました。

関係各位の皆さまには応援、ご協力を賜り誠にありがとうございました。

今後は県内のライバルであり、仲間である各チームとともにお互いに切磋琢磨し合い、栃木県高校サッカーの更なる発展のため、より一層の努力をしていきたいと思えます。



②高円宮杯U-18サッカーリーグ

2013ユースリーグ栃木

『1部』

- 1位：矢板中央高校→次年度：残留（プリンスリーグ関東参入 決定戦敗退のため）
- 2位：栃木SCユース
- 3位：真岡高校
- 4位：佐野日本大学高校B
- 5位：宇都宮短期大学附属高校
- 6位：國學院栃木高校
- 7位：宇都宮白楊高校
- 8位：さくら清修高校→次年度：2部へ（自動降格）
- 9位：白鷗足利高校→次年度：2部へ（自動降格）
- 10位：小山西高校→次年度：2部へ（自動降格）

『2部グループA』

- 1位：小山西高校→次年度：1部へ（自動昇格）
- 2位：宇都宮高校→次年度：1部へ（昇格戦勝利のため）
- 3位：足利工業大学附属高校
- 4位：栃木高校
- 5位：益子芳星高校
- 6位：宇都宮白楊高校B

- 7位：鹿沼高校
- 8位：足利高校→次年度：3部へ（自動降格）
- 9位：小山高校→次年度：3部へ（自動降格）
- 10位：青藍泰斗高校→次年度：3部へ（自動降格）

『2部グループB』

- 1位：佐野日本大学高校C
- 2位：真岡高校B
- 3位：大田原高校→次年度：1部へ（自動昇格）
- 4位：矢板中央高校B
- 5位：鹿沼東高校→次年度：残留（昇格戦敗退のため）
- 6位：石橋高校
- 7位：宇都宮工業高校
- 8位：文星芸術大学附属高校→次年度：3部へ（自動降格）
- 9位：今市工業高校→次年度：3部へ（自動降格）
- 10位：足利工業高校→次年度：3部へ（自動降格）

『3部グループa』

- 1位：矢板中央高校C
- 2位：高根沢高校→次年度：2部へ（自動昇格）
- 3位：黒磯高校→次年度：2部へ（昇格戦勝利のため）
- 4位：さくら清修高校B
- 5位：矢板東高校
- 6位：黒磯南高校
- 7位：那須清峰高校
- 8位：那須拓陽高校
- 9位：今市工業高校B
- 10位：宇都宮高校C
- 11位：真岡北陵高校

『3部グループb』

- 1位：宇都宮清陵高校→次年度：2部へ（自動昇格）
- 2位：宇都宮北高校→次年度：残留（昇格戦敗退のため）
- 3位：佐野日本大学高校D
- 4位：國學院栃木高校B
- 5位：宇都宮白楊高校C
- 6位：真岡工業高校
- 7位：白鷗足利高校B
- 8位：宇都宮南高校
- 9位：宇都宮商業高校
- 10位：茂木高校

『3部グループc』

- 1位：栃木SCユースB→次年度：2部へ（自動昇格）
- 2位：今市高校→次年度：2部へ（昇格戦勝利のため）
- 3位：宇都宮短期大学附属高校B
- 4位：宇都宮東高校
- 5位：宇都宮高校B
- 6位：宇都宮工業高校B
- 7位：作新学院高校

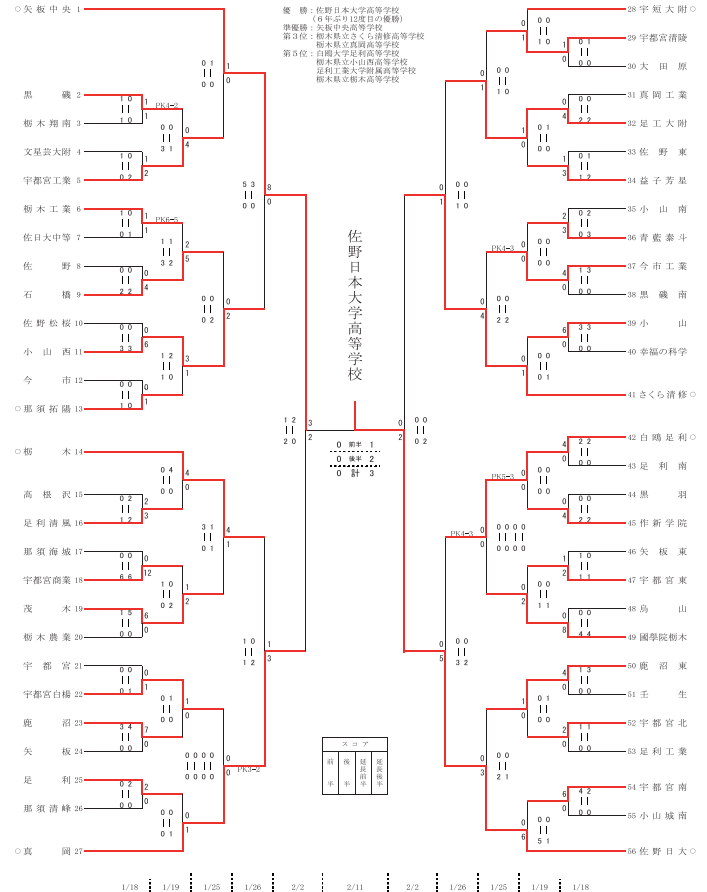
- 8位：益子芳星高校B
- 9位：栃木高校B
- 10位：黒磯高校B
- 11位：栃木工業高校B

『3部グループd』

- 1位：足利清風高校→次年度：2部へ（自動昇格）
- 2位：佐野東高校→次年度：残留（昇格戦敗退のため）
- 3位：小山南高校B
- 4位：佐野高校
- 5位：佐野日本大学中等教育学校
- 6位：佐野松桜高校
- 7位：栃木工業高校
- 8位：栃木翔南高校
- 9位：小山城南高校
- 10位：壬生高校

平成25年度栃木県高等学校サッカー新人大会 結果

平成26年1月18・19・25・26日 2月2・11日



「入れ替えシステム」

(1) 昇格

- ① 1部1位：プリンスリーグ関東参入戦参加
- ② 2部・3部各グループ1位：自動昇格
 （ただし、上位部に同一高校・チームがいる場合は、昇格できず）
 （その場合、順位繰り上げて上位チームが昇格する）
- ③ 2部各グループ2位：昇格戦出場（勝者1部へ）
- ④ 3部各グループ2位：昇格戦出場（勝者2部へ）

(2) 降格

- ・ 1部下位3チーム：自動降格
- ・ 2部下位3チーム：自動降格

③各支部新人戦

『北部』

- 1位：さくら清修高校
- 2位：矢板中央高校
- 3位：那須拓陽高校 *1

『中部』

- 1位：真岡高校
- 2位：宇都宮白楊高校
- 3位：文星芸術大学附属高校
 宇都宮工業高校

『南部』

- 1位：佐野日本大学高校
- 2位：栃木高校
- 3位：白鷲足利高校 *1

*1：県新人サッカー大会のシード権のため

3. 平成26年度栃木県高校サッカー関係行事日程（予定）

※変更がありますので、ご了承ください

- (1) 4月5日～
 高田宮杯U-18サッカーリーグ
 2014ユースリーグ栃木
- (2) 4月26日～
 関東大会県予選会
- (3) 6月1日～
 栃木トヨタカップ
- (4) 6月7日～
 インターハイ県予選会
- (5) 8月9日～
 選手権大会栃木大会一次予選会
- (6) 10月18日～
 選手権大会栃木大会
- (7) 1月17日～
 県新人サッカー大会

中学生年代の現状と課題

中学連盟委員長
菅谷 昌広

中学生年代を取り巻くサッカー環境は改善されつつあるが、まだまだ様々な課題を抱えている。現在、3種として取り組んでいる以下の3つの点について、現状と課題を述べてみたい。

①リーグ戦

近年、中学生年代では3種リーグの整備を進めてきた。その結果、U-15年代では今年度で1部リーグを頂点とする4部リーグまでのピラミッド形式のリーグが何とか整った。当初は中体連のチームの参加が少なかったが、現在では2部リーグに5チームが3部リーグに9チームが参戦し、地区リーグとなる4部リーグは中体連のチームによって構成されている。

中体連のチームには引率者や審判の有資格者の確保という点で、リーグ戦に参加しにくい事情があるのも事実である。開催期間に関しても、秋まで実施することが理想ではあるが受験準備の関係で大部分のチームは夏休み前には日程を終了させなければならない。会場の確保や日程の調整についても運営担当者が苦勞しているところである。その半面、高円宮杯の参加チーム数を今までの各都道府県の登録チーム数ではなくリーグ戦参加チーム数をもとに算出するという流れになってきており、多くのチームが参加しやすい環境作りも進めていかなければならない。

現場の意見も参考にして課題を1つ1つクリアしながら、リーグ戦が日常のものとなるようなゲーム環境を目指しているところである。

②指導者の質

中体連のチームではサッカー専門の指導者が顧

問になっているとは限らず、望ましい指導が行われていないのが実情である。そこで、JFAのミッション4「中学生年代の環境充実」の一環として中体連の指導者を対象に基本的な内容にフォーカスした指導者講習会を継続して実施してきた。来年度は、栃木県を代表する栃木SC・栃木ウーヴァ・ヴェルフェたかはら那須の各チームと連携を図りながら、各地区の実情に応じた講習会を実施していく計画である。しかし、最終的には指導者が情熱をもって選手をコーチングしなければ良い指導にはならない。地区のユース委員会等の組織を活用しながら経験のない指導者をバックアップし、意欲ある指導者を育てていこうとする雰囲気作りが大切ではないだろうか。

また、裾野を広げると同時に県や地区のリーダーとなる指導者を育成する必要がある。ここ数年では若い指導者が積極的にC級コーチの資格を取得している。この流れを大切にし、さらに上級のA・B級コーチの資格取得に積極的にチャレンジするよう呼びかけていきたい。

③組織の充実

中学生年代の育成を充実させるためには、中体連とクラブが連携していかなければならないことは言うまでもない。今まではなかなかお互いの意思の疎通がうまくできていなかったが、徐々に共通理解が図られるようになった。しかし、まだ十分に協力体制が築けているとはいえない。

中体連もクラブもそれぞれストロングポイントはあるがウイークポイントも抱えている。両者がそれらを理解し、4種から預かったこの年代の選手をしっかりと育成し2種にバトンを渡さなければならない。そのためにも大会運営・技術・審判等の各分野で組織化を推進し、3種としてより良いサッカー環境を整えていけるようにしたいと考えている。



ウイングス クラブサッカー



ウイングスサッカークラブ
近藤 健

我々、ウイングスSCは東京ヴェルディ下部組織である育成部に所属します。

地域に根ざしたクラブチームを目指し、2006年4月よりヴェルディSS小山より分離、独立し活動を始める。

特に選手育成に力を入れ、Jリーグまたは世界で活躍する選手を育て上げる事をチームコンセプトとする。

またサッカーを生涯スポーツとして捉え、仲間づくりや地域貢献など様々な活動を通し、豊かな個性を持った質の高いサッカー選手（小僧）を育て上げます。

(ジュニアスクール)

練習会場 西の森サッカー場、鹿沼自然の森サッカー場、松が峰幼稚園

練習日 火、木、金 17-19時
土 10-12時

所属選手 約150名

サッカーの素晴らしさ楽しさを追求し、サッカーを通じて少年少女の健全な育成を図り

普及と地域のスポーツ文化の発展に寄与する。

(ジュニアユース)

練習会場 西の森サッカー場、鹿沼自然の森サッカー場、城山中学校他

所属選手 65名 (女子1名)

練習日 火～日

個性豊かなプレーヤー、世界で通用するプロフェッショナルな選手を育成する事を目的とする。

(タイトル)

ジュニア 2006. 2007. 2008. 2012年

山形蔵王CAP優勝

2013年山形蔵王CAP準優勝

神栖CAP 2012. 2013年 優勝

Jr. ユース 2010. 2011年

クラブユース栃木予選 3位

2012年 栃木県U-13 リーグ準優勝

2013年 栃木県U-13 リーグ優勝

2013年 下野杯準優勝

今年度の活動を振り返って

ヴェルフェたかはら那須
監督 小幡 正

ヴェルフェたかはら那須では現在中学2年生が1名、中学1年生が13名在籍しており日々、活動しています。平日3回のトレーニング、週末には栃木県クラブユース連盟主催の大会やリーグ戦の参加、また練習試合などの活動をしております。これらの活動は他チームのチーム関係者のご協力、ご配慮によりグラウンドの提供などしていただき成り立ったものであり大変感謝しております。

ヴェルフェたかはら那須の育成方針としましては「たくましい人間、すなわち自分で判断し決断できる選手の育成に努め、その為に必要なコミュニケーション能力や感謝する心を日々の活動の中で育て豊かな人間性を兼ね備えた選手を多く育てることを目標としています。」

またサッカーの活動を通して目標に向かって努力し、日々の練習に取り組む姿勢にこだわりを持って、チームメイトと共に喜びや苦しみを共に分かち合いながら人として成長できるよう促していくことを念頭に私達スタッフ共々、日々の活動を行っております。

2013年度、新規立ち上げたチームとして一年間、戦った感想としましては非常に厳しい一年だったのと同時に非常にいい経験ができた一年だったのではと考えております。

U-13リーグ戦により多くの試合を経験ができたこと、結果としては1勝12敗3分けとなりましたが多くの試合を経験することで日々の練習の意味やまた練習に対する取り組む姿勢の重要性を感じることができました。また試合を通してチームとして活動することでサッカーをプレーする以外に必要なことがたくさんあるということを経験になったと感じております。

これからの活動としましてはサッカーの本質を追究していくとともに多くの人に関わってチームがあり、チームが活動できることの喜びを感じ、選手共々感謝の気持ちを忘れずに日々の活動に取り組んで、まずピッチの中で一生懸命、全力で、ひたむきにプレーすることで携わっていただいている方々に少しでもそういった姿で恩返しができるよう努力していきたいと考えております。

これからも関係者各位の皆様、そして地域の皆様には今までと同様のご指導、ご協力のほど宜しくお願い致します。

第4種委員会 第42回栃木県少年サッカー選手権大会



10月13日から4日間にわたり、第42回大会が行われました。

姿川中央SC：藤本那智さんによる選手宣誓で大会がスタートしました。

195チームが参加した今大会も多くの名勝負が生まれました。決勝は栃木SCジュニア（宇河）対と

もぞうSC（宇河）となりました。両者一步も譲らぬ好ゲームとなりましたが、またしても栃木SCジュニアが底力を見せ優勝しました。準優勝はともぞうSC、第3位には野原グランディオスFC（北那須）、TEAMリフレSC（宇河）が輝きました。



<優勝した栃木SCジュニア>



<準優勝のともぞうSC>



<第3位の野原グランディオスFC>



<第3位のTEAMリフレFC>

また、10月20日、26日にはジュニアの部も開催されました。4年生以下のフレッシュな大会です。結果は、野原グランディオスFC（北那須）、ともぞうSCジュニア（宇河）がブロック優勝しました。準優勝はFCアネーロ宇都宮U-10（宇河）、富士見SSS（宇河）でした。



＜優勝した野原グランディオスFC＞



＜準優勝したFCアローネ宇都宮U-12＞



＜優勝したともぞうSCジュニア＞



＜準優勝の富士見SSS＞

第23回バーモントカップ 全日本少年フットサル大会 栃木県大会

11月16日、17日にわたり、フットサルの全国大会予選となるバーモントカップが行われました。

各地区予選を勝ち上がった48チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。決勝はFC朱雀（両毛）対FCみらい・U-12（宇河）の対戦となりました。白熱した決勝戦となりましたが、FC朱雀が制し優勝。全国大会の切符を手にしました。準優勝はFCみらい・U-12、第3位にはFC氏家（塩谷）とともぞうSC（宇河）が輝きました。



＜優勝したFC朱雀＞



＜準優勝したFCみらい・U-12＞

QUALIER CUP 第31回栃木県少年サッカー 新人大会

1月11日から3日間にわたって新人大会が開催されました。

大会は各地区の予選を勝ち上がった54チームが優勝を目指して激しい戦いを繰り広げました。

決勝日に勝ち進んだのは、ともぞうSC（宇河）、TFFC ARDORE（両毛）、ヴェルフェU-12（塩谷）、TEAMリフレSC（宇河）、昭和・戸祭SC（宇河）、栃木SCジュニア（宇河）の6チームでした。決勝は、ともぞうSC対昭和・戸祭SCの宇河勢対決となりました。1点を争う好ゲームとなりましたが、ともぞうSCが1-0で勝利し、優勝しました。



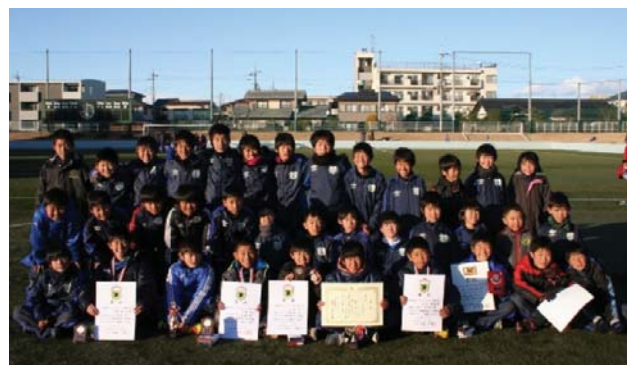
<優勝したともぞうSC>



<準優勝の昭和・戸祭SC>



<第3位のTEAMリフレSC>



<第3位のヴェルフェU-12>

第26回全国福祉祭こうち大会 ねんりんピックよさこい高知2013 サッカー交流会 視察報告書

（公社）栃木県サッカー協会 シニア委員会

委員長 福田 治

宇都宮サッカー協会 事務局長 澁谷 健一

会場 南国市 南国市立吾岡山文化の森スポーツ
広場（1面）

高知市 春野運動公園陸上競技場、陸上補助
球場、球技場、多目的広場（4
面）

香南市 香南市野市ふれあい広場（2面）

※1 監督者会議 高知市春野文化ホール
ピアステージ

※2 合同開始式 春野総合運動公園体育館

10月26日（土）

（14:20～15:20予定）監督者会議 高知市春野文
化ホール ピアステージ

※監督の移動バスの遅れにより開会が遅れる。

14:45

1. 開会通告

司会：大会副委員長 國澤 卓

※自己紹介

（公財）日本サッカー協会シニア大会部会
長 藤縄信夫、（公財）日本サッカー協会
競技運営部 久保雅義、（一社）高知県
サッカー協会専務理事 福川 元多賀、南
国市実行委員会（1名）、高知市実行委員
会（1名）、香南市実行委員会（2名）

2. 歓迎あいさつ

大会委員長 (一社) 高知県サッカー
協会専務理事 福川 元多賀

14:52

3. 競技に関する説明

- (1) 開催要領 競技委員長 三谷 昭夫
- (2) 競技運営上の注意事項
競技委員長 三谷 昭夫
- (3) 競技上の注意事項
審判員長 島田 寿男
- (4) その他 総務副委員長 西村 静夫
質問 GKのユニホームについて(怪我等
における背番号の問題)

15:18

4. 大会に関する諸連絡

- (1) 表彰式について
南国市実行委員会 事務局
- (2) 荒天時の対応
南国市実行委員会 事務局
- (3) 宿泊・輸送について
南国市実行委員会 事務局
- (4) その他 南国市実行委員会 事務局

5. 大会に関する諸連絡

15:25

- 6. 閉会通告 司会者
(チーム：閉会后、各ブロックごとに着用
ユニホームの調整→解散)

1. 開式通告

- 2. 開会宣言 南国市副市長 藤村 明男
- 3. 国旗・大会旗・主管競技団体旗・県旗・市旗
儀 礼
- 4. 大会会長あいさつ 南国市長 橋詰 壽人
- 5. 歓迎のことば 高知市長 岡崎 誠也
香南市長 清藤 真司
- 6. 特別表彰
卓球交流大会
最高齢者賞、高齢者賞、南国市特別賞
サッカー交流大会
最高齢者賞、高齢者賞、南国市特別賞
※高齢者賞 栃木県 吉澤茂弘 表彰
ソフトボール交流大会
最高齢者賞、高齢者賞、香南市特別賞
- 7. 選手宣誓
- 8. 閉式通告
※宿舎に移動



(15:50~16:50予定) 合同開始式 高知県立春野総合運動公園体育館

※卓球、ソフトボール、サッカー交流大会の三種目合同で行う。



10月27日(日)

交流試合開始

9:00

香南市 香南市野市ふれあい広場（2面）視察

・健康づくりコーナー

会 場 高知県立青少年センター体育館

内 容 健康づくりの指導、健康チェック、
健康相談など

・おもてなしコーナー

会 場 香南市野市ふれあい広場

内 容 汁物・湯茶等の無料サービス
※なくなり次第終了



栃木代表選手



栃木 対 高知B 試合前

10月28日(月)

8:30

南国市 南国市立吾岡山文化の森スポーツ広場
（1面）視察

交流試合 9:00～9:45 栃木0 - 1 広島市

10:00

南国市 南国市立吾岡山文化の森スポーツ広場
（1面）視察

・健康づくりコーナー

会 場 南国市立吾岡山文化の森スポーツ
広場

内 容 健康づくりの指導、健康チェック、
健康相談など

・おもてなしコーナー

会 場 南国市立吾岡山文化の森スポーツ
広場

内 容 シャモ鍋、豚汁、アイスクリン
※なくなり次第終了

・ケアスポットコーナー

会 場 南国市立吾岡山文化の森スポーツ
広場

内 容 マッサージなど

交流試合 11:45～12:30 栃木4 - 0 高知B

栃木得点者 芳賀2、篠1、栗原1



栃木 対 広島市 試合前

交流試合 12:40～13:25 栃木得点者 芳賀1



栃木 対 広島市 試合前

Bブロック 表彰式 14:00～

南国市立吾 岡山文化の森スポーツ広場

- 優勝 広島市
(チーム) 賞状 (監督・選手) 金メダル
- 準優勝 栃木県
(チーム) 賞状 (監督・選手) 銀メダル
- 第3位 宮城県
(チーム) 賞状 (監督・選手) 銅メダル
- 第4位 高知県B



栃木県 Bブロック 準優勝表彰

チーム名	宮城県	栃木県	広島市	高知県B	勝点	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
1 宮城県	0×1	0×2	4 0 0	3 1 0	2 4 3	1 3						
2 栃木県	1 0 0	0×1	4 0 0	6 2 0	1 5 1	4 2						
3 広島市	2 0 0	1 0 0	1 0 0	9 3 0	0 4 0	4 1						
4 高知県B	0×4	0×4	0×1	0 0 0	3 0 9	-9 4						

第7回関東シニア選手権大会 (Over-50) 成績表 兼 ねんりんピック栃木2014宇都宮市サッカー交流大会リハーサル大会

【A組】	高麗SC 50 (東京都)	栃木EIKOH (栃木県)	パルスSC50 (埼玉県)	ウイットランド マスターズ (神奈川県)	試合 数	勝点	勝	引分	負	得点	失点	得失差	順位
高麗SC 50 (東京都)	○	△	○	○	3	7	2	1	0	5	1	4	1
栃木EIKOH (栃木県)	●	○	●	●	3	0	0	0	3	1	7	-6	4
パルスSC 50 (埼玉県)	△	○	○	○	3	7	2	1	0	4	1	3	2
ウイットランド マスターズ (神奈川県)	●	○	●	○	3	3	1	0	2	3	4	-1	3

※勝ち (○) : 3点 分け (△) : 1点 負け (●) : 0点

【B組】	FC前橋 50 (群馬県)	袖ヶ浦 木更津 シニア (千葉県)	山梨シニア50 (山梨県)	日立FC 50 (茨城県)	試合 数	勝点	勝	引分	負	得点	失点	得失差	順位
FC前橋 50 (群馬県)	○	△	○	○	3	7	2	1	0	5	2	3	2
袖ヶ浦 木更津 シニア (千葉県)	●	○	●	○	3	3	1	0	2	4	6	-2	3
山梨シニア 50 (山梨県)	△	○	○	○	3	7	2	1	0	5	2	3	1
日立FC 50 (茨城県)	●	●	●	○	3	0	0	0	3	1	5	-4	4

※勝ち (○) : 3点 分け (△) : 1点 負け (●) : 0点

最終順位

優勝	高麗SC 50 (東京都)
準優勝	山梨シニア 50 (山梨県)
第3位	パルスFC 50 (埼玉県)
第4位	FC前橋 50 (群馬県)
第5位	袖ヶ浦 木更津 シニア (千葉県)
第6位	ウイットランド マスターズ (神奈川県)
第7位	日立FC 50 (茨城県)
第8位	栃木EIKOH (栃木県)

【7、8位決定戦】

栃木EIKOH (栃木県) A組 4位
 抽選の結果
 日立FC 50の勝
 日立FC 50 (茨城県) B組 4位

【3、4位決定戦】

パルスSC 50 (埼玉県) A組 2位
 FC前橋 50 (群馬県) B組 2位

【5、6位決定戦】

ウイットランド
マスターズ
(神奈川県) A組 3位
 2 - 2
 2 PK 4
 袖ヶ浦 木更津
シニア
(千葉県) B組 3位

【優勝決定戦】

高麗SC 50 (東京都) A組 1位
 1 - 1
 抽選の結果
 日立FC 50の勝
 山梨シニア 50 (山梨県) B組 1位

第7回関東シニアサッカー選手権大会 (Over40) 最終成績表

【A組】	山梨マスターズ (東京都)	足立マスターズ (栃木県)	館林シニア40 (埼玉県)	ドリーム水戸 (茨城県)	試合 数	勝点	勝	引分	負	得点	失点	得失差	順位
山梨マスターズ (山梨県)	● 1-2	● 2-3	△ 1-1		3	1	0	1	2	4	6	-2	4
足立マスターズ (東京都)	○ 2-1		● 1-3	● 1-2	3	3	1	0	2	4	6	-2	3
館林シニア40 (群馬県)	○ 3-2	○ 3-1		○ 2-1	3	9	3	0	0	8	4	4	1
ドリーム水戸 (茨城県)	△ 1-1	○ 2-1	● 1-2		3	4	1	1	1	4	4	0	2

※勝ち (○) : 3点 分け (△) : 1点 負け (●) : 0点

【B組】	VAMOS鳩山 (埼玉県)	浦安シニアSC (千葉県)	栃木EIKOH (栃木県)	Bon De bola藤沢 (神奈川県)	試合 数	勝点	勝	引分	負	得点	失点	得失差	順位
VAMOS鳩山 (埼玉県)	● 0-2	△ 1-1	● 1-3		3	1	0	1	2	2	6	-4	3
浦安シニアSC (千葉県)	○ 2-0		○ 4-0	● 0-1	3	6	2	0	1	6	1	5	2
栃木EIKOH (栃木県)	△ 1-1	● 0-4		● 0-3	3	1	0	1	2	1	8	-7	4
Bon De Bola藤沢 (神奈川県)	○ 3-1	○ 1-0	○ 3-0		3	9	3	0	0	7	1	6	1

※勝ち (○) : 3点 分け (△) : 1点 負け (●) : 0点

【優勝決定戦】 会 場：神奈川県立体育センター 球技場
キックオフ：13:30
対戦カード：館林シニア40SC(A-1位) **0-2** Bo De Bola藤沢(B-1位)

【3位決定戦】 会 場：神奈川県立体育センター 陸上競技場
キックオフ：13:30
対戦カード：ドリーム水戸シニアFC(A-2位) **0-3** 浦安シニアFC(B-2位)

【最終成績】 総合優勝 **Bo De Bola藤沢 (神奈川県)**
総合準優勝 **館林シニア40SC (群馬県)**
総合3位 **浦安シニアFC (千葉県)**
総合4位 **ドリーム水戸シニアFC (茨城県)**

第14回全国シニア関東予選大会 (Over60) ・成績表

【A組】 会場：市原スポレクA (道路側) ・B・C・D ※20分-10分-20分

	埼玉県	茨城県	栃木県	千葉県	勝点	勝	引分	負	得点	失点	得失差	順位
埼玉県代表 (埼玉シニア60)		②-B 3-0	④-C 1-1	⑦-B 0-1	4	1	1	1	4	2	3	2
茨城県代表 (茨城シニア60)	②-B 0-3		⑦-A 1-3	④-D 0-4	0			3	1	10	-7	4
栃木県代表 (栃木大昭SC)	④-C 0-0	⑦-A 3-1		②-C 0-3	4	1	1	1	3	4	-3	3
千葉県代表 千葉四十雀SC	⑦-B 1-0	④-D 4-0	②-C 3-0		9	3			8	0	7	1

【B組】 会場：市原スポレクA（道路側）・B・C・D ※20分ー10分ー20分

	東京都	神奈川県	山梨県	群馬県	勝点	勝	引分	負	得点	失点	得失差	順位
東京都代表 (東京都選抜)		②-A 2-0	④-A 4-0	⑦-D 1-1	7	2	1	0	7	1	6	1
神奈川県代表 (横須賀メジャー60)	②-A 0-2		⑦-C 2-0	④-B 1-1	4	1	1	1	3	3	0	2
山梨県代表 (山梨50シニア)	④-A 0-4	⑦-C 0-2		②-D 1-0	3	1		2	1	6	-5	3
群馬県代表 (群馬FC60)	⑦-D 1-1	④-B 1-1	②-D 0-1		2		2	1	2	3	-1	4

※勝点 勝ち：3点 引き分け：1点 負け：0点（同率順位の時：得失点差・総得点・当該チーム試合結果により）

【優勝・3位・決定戦】 開始時間：12時30分 ※順位により、表彰を行います

会場： 決勝：Cグラウンド 3位決定戦：Bグラウンド

決勝		千葉県	V S	東京都	優勝 東京都代表
	Cグラウンド	0		1	2位 千葉県代表
3位決定戦		埼玉県	V S	神奈川県	3位 神奈川県代表
	Bグラウンド	0		4	4位 埼玉県代表
5位決定戦		栃木県	V S	山梨県	5位 栃木県代表
	Aグラウンド	4		0	6位 山梨県代表
7位決定戦		茨城県	V S	群馬県	7位 群馬県代表
	Dグラウンド	0		2	8位 茨城県代表

第4回全国シニアフェスティバル関東予選 ・第1回関東選手権(Over70)大会・成績表

【A組】 会場：市原スポレクA（道路側）・B・C・D ※20分ー10分ー20分

	東京都	山梨県	群馬県	栃木県	勝点	勝	引分	負	得点	失点	得失差	順位
東京都代表 (東京都ロイヤル)		②-B -	④-D 5-0	(中止引分け) 0-0	4	1	1		5	0	5	1
山梨県代表 不参加:キャンセル	②-B -		⑤-A -	④-C -	0				0	0	0	
群馬県代表 (群馬FC60)	④-D 0-5	⑤-A -		②-C 0-2	0			2	0	7	-7	3
栃木県代表 栃木大昭SC	⑤-B 0-0	④-C -	②-C 0-1		4	1	1		2	0	2	2

【B組】 会場：市原スポレクA（道路側）・B・C・D ※20分ー10分ー20分

	埼玉県	神奈川県	千葉県	茨城県	勝点	勝	引分	負	得点	失点	得失差	順位
埼玉県代表 (埼玉シニア70)		②-A 3-2	④-A 1-0	⑤-D 3-0	9	3			7	2	5	1
神奈川県代表 (神奈川70ウエスト)	②-A 2-3		⑤-C 1-0	④-B 3-0	6	2		1	6	3	3	2
千葉県代表 (ACちば)	④-A 0-1	⑤-C 0-1		②-D 1-0	3	1		2	1	2	-1	3
茨城県代表 (茨城シニア70)	⑤-D 0-3	④-B 0-3	②-D 0-1		0			3	0	7	-7	4

※勝点 勝ち：3点 引き分け：1点 負け：0点（同率順位の時：得失点差・総得点・当該チーム試合結果により）

【優勝・3位・決定戦】 開始時間：12時30分 ※順位により、表彰を行います

会場： 決勝：Cグラウンド 3位決定戦：Bグラウンド

決勝		東京都	V S	埼玉県	優勝 東京都代表
	Cグラウンド	4		1	2位 埼玉県代表
3位決定戦		群馬県	V S	神奈川県	3位 神奈川県代表
	Bグラウンド	0		5	4位 群馬県代表
5位決定戦		栃木県(棄権)	V S	千葉県	5位 千葉県代表
	Aグラウンド				6位 栃木県代表
7位決定戦		A組4位	V S	B組4位	7位 茨城県代表
	Dグラウンド	中止			

とちぎ発グラスルーツフェスティバル ～多くの指導者との関わりで～

キッズ委員会委員長 金井 理

グラスルーツフェスティバルとは・・・

「本来サッカー未経験者に対して行うイベントで、ゲームとワークショップ（簡単なトレーニング）を交互に行う形式のものです。そして、このイベントを通してサッカーを好きになってもらおう、サッカーを始めてもらおう・・・という目的のものです。



(石崎会長あいさつ)

栃木県では・・・

初となる「JFAキッズサッカーフェスティバルグラスルーツ2013とちぎ」を開催しました。1, 2年生を対象に未経験者にたくさん来てほしいという願いを込めて募集しました。結果的には、全体の2割ぐらいが未経験者でした。

しかしながら、普段味わえないイベントに参加してさらにサッカーが好きになってくれたり、これからもずっと続けていこうという気持ちになっ

てくれたりすることが期待できるという思いもあり、募集してくれたすべての子ども達を受け入れました。



(講習を受ける指導者のみなさん)

このイベントを行うにあたり・・・

栃木SC育成部コーチ久米洋司氏、レディース監督の田代久美子氏、ウイングス鹿沼の安田孟浩氏には企画の部分から大変お世話になりました。実際にFIFA主催のグラスルーツフェスティバルの研修を受けてこられたということで、たくさんのアドバイスをいただきました。



(栃木SC田代氏によるシミュレーション)

また、県少年サッカー連盟会長の高瀬利夫氏をはじめとする連盟の方々には、選手募集やD級リ

フレッシュの研修会としての認定などの協力をいただきました。県技術委員会との連携でC級コーチリフレッシュ研修（10P）としても認定していただきました。女子連盟の徳田氏も当日役員として参加してくださいました。さらに、県協会事務局の方々には、大量の印刷物をお願いしたりと、多くの方々の協力があって開催されたことに感謝するとともに大変意義のあることだと思っています。



(セッション毎のシミュレーション)

このイベントの成功のカギは・・・

大人（コーチ）の関わりです。午前中は、講義やシミュレーションを行い参加者全員がこのイベントに向けて内容や役割を共通理解できるような研修会を行いました。

栃木SCの田代氏には、FIFAのグラスルーツフェスティバルに参加した時の研修内容を分かりやすく話していただきました。



(子ども達とのコミュニケーション)

また、県役員12名、研修会参加者38名、とちぎSCレディース12名、計62名のスタッフ全員で、子ども達を迎えるためのハード面、ソフト面の事前の準備をしっかりとすることが大切だ、ということや子ども達や保護者の方々をおもてなしの心を持って迎えよう、ということを共通理解をしました。このような時間を共有したことでグラスルーツフェスティバルとちぎの内容は、ほぼ伝わったと確信しています。



(子供たちとのふれあい)

役割の確認では・・・

ワークショップ担当者は6つのセッションに分かれ「ドリブル」「シュート」「パス」「対面ゴールゲーム」「4ゴールゲーム」「ラインゴールゲーム」とそれぞれのセッションのチーフを中心に内容とオーガナイズの確認を行いました。

チーム担当者についても、キッズ委員会副委員長の稲垣浩充氏を中心に子ども達への関わり方や、動き方などの打ち合わせを行いました。

ピッチ上でのシミュレーションでは・・・

参加者全員で、すべてのセッションをチーフの講習をもとに体験することで、本日行われるイベントの全体像を確認しました。それぞれのセッションにおける指導者の関わり方やキーフクターなどを確認し合ったことは、コーチ一人一人が、自信を持って子ども達を迎えるために大変重要なことだと思います。このシミュレーションの役割の大切さをスタッフ全員が感じたのではないかと思います。

子ども達が集まりだすと・・・

スタッフにも緊張感が高まってきましたが、受付時にビブスを配ったり、名前シールを作ったりとあわただしい面もありましたがそれぞれの役割分担での仕事を自信を持ってやってくれました。



(ワークショップの様子)

オープニングまでの間も、子ども達を飽きさせないようにとチーム担当のスタッフは大変だったと思います。遊んだり、自己紹介をしたり、準備

運動をしたりと担当スタッフの関わりもいろいろあり大変良かったと思います。おかげでオープニング前には担当者も子ども達もコミュニケーションがとれている状態でした。始まる前のこの時間の関わりは、子ども達との関係を築く上でとても大切です。この時間があったからこそ成功だったといっても過言ではありません。



(ワークショップの様子)

オープニングでは・・・

会長の石崎忠利氏、専務理事の糸井朗氏も来ていただきあいさつをいただきました。

ワークショップでは、楽しそうに活動する子ども達の姿をたくさん見ることができました。指導者の方々も笑顔で子ども達に接しながら、一緒になって体を動かしていました。普段より、大きな声を出したりオーバーアクションだったりしながら何とか子ども達を楽しませようとする意気込みが伝わってきました。その甲斐あって、どのセッションも大変盛り上がっていました。普段の自分の殻を破っていたコーチもいました。



(ゲームの様子)

チーム担当の指導者の方々も、いいプレーをたくさん見つけて大きな声で褒めていたり、失敗しても励ましたりしながら、子ども達と関わっていました。あの手この手で子ども達の不安を解消するよう

な関わりをし子ども達のがのびのびプレーできる環境を指導者の方々が作っていました。終盤には、栃木SCのマスコットのトッキーも登場し多いに盛り上がりました。全体の最後には、ハーフコート全体を使って子ども対指導者のゲームをしました。子ども達にとって楽しい時間だったようです。



(トッキー登場)

たった半日の関わりでしたが、担当コーチと子ども達の関わりは濃かったと思います。

クロージングでは・・・

全員で記念写真を撮りました。最後は、コーチ全員が子ども達の前に並び、全員とハイタッチをして別れました。子ども達はもちろんですが、コーチの皆さんもさわやかな笑顔でした。大成功だったと思います。



(子ども対コーチで大ゲーム)

今回のイベントを通して・・・

われわれ県キッズ委員会のメンバーだけではできないものでした。1日ばかりという研修で大変だったと思いますが、この研修会を選んで参加して下さったすべてのコーチの皆様、栃木SCレディースの選手の皆様には大変感謝しております。また、今回の研修会を通して準備の大切さが子ども達の笑顔を生む一つの要因だということを皆さんで体感できたと思います。今後また指導者として、選手として成長していってくれたら嬉しいと思います。



(保護者の応援)

アンケートから・・・

今回のイベントに関して、保護者の皆様や研修を受けたコーチの皆様にはアンケートに協力をいただきました。回答してくださった中から、今後役に立つようなものを抜粋してお伝えしたいと思います。アンケート全体としてはほぼ全員が良かったという目線で答えてくださいました。また、今後の改善点なども指摘してくださるご意見もありました。真摯に受け止め来年度に生かしていきたいと思ひます。



(子ども達とハイタッチでお別れ)

《保護者より (68人回答)》

- ・コーチが盛り上げて褒めてくれて、見ている親も楽しかったです。
- ・初めての友だちとともにプレーし、サッカーを楽しむことができ、改めてサッカーの楽しさを感じられたと思う。
- ・子ども達が飽きないようなメニューで良かったです。コーチが子ども達を飽きさせないように工夫していて素晴らしかった。
- ・スタッフの方々が一生懸命運営しているのが子どもにも親にも伝わりました。
- ・コーチが優しく良かったです。子どもも嬉しそうだった。
- ・初めて参加しましたが、子どもが楽しんで参加している様子を見て嬉しかった。

- ・サッカーを通してたくさん子ども達と触れ合えてよかったです。



(おみやげもらって嬉しそうです)

《研修会参加者より44人回答》

- ・他のクラブのコーチ、スタッフの方々とコミュニケーションがとれて良かった。
- ・1, 2年生の経験の浅い子ども達と触れ合い、初志を思い出すことができた。
- ・チームでもキッズを見ているので、練習のレパートリーが増えた。
- ・子ども達と実際に触れ合うことができる内容の研修が良かった。
- ・自チームの練習に生かせる内容であった。内容や心構えなど。
- ・練習に生かせるところが多々あったので活用したい。

以上のように本当に嬉しい意見をたくさんいただきました。さらに頑張ろうという気持ちになります。

今後も・・・

グラスルーツフェスティバルは続けていきたいと考えています。できれば県内各地でいろいろな場所で行いたいと思ひます。そのためには、多くの大人が必要です。どうかまたこのようなイベントがある場合には力をお貸しください。キッズ年代の子ども達を育てることが栃木県のサッカーのレベルを押し



(参加者全員で記念撮影)

上げることと思います。今回参加して下さった指導者の皆さん、これを読んでいただいている指導者の皆さん、栃木のサッカーをキッズから盛り上げていきましょう。「指導者が変われば子どもが変わる」です。よろしく願いいたします。

全日本ユース（U-15）フットサル 男女共催で初の県予選

これまで本協会クラブユース連盟主管で行われてきた男子中学世代の「全日本ユース（U-15）フットサル栃木県大会」が、本年度から本協会フットサル委員会に主管が移行されました。

また、これまで出場チームが宇都宮市泉が丘中学校のみで、県予選が行われてこなかった「全日本ユース（U-15）女子フットサル栃木県大会」が出場チーム増により初めて実施されました。

主管移行となった男子大会と、栃木県予選初開催となった女子大会は10月20日に真岡市スポーツ交流館で併催され、男子はAS栃木bom de bolaが、女子は足利・両毛ローザが初優勝を飾り、それぞれ関東大会出場の内切符を手に入れました。栃木県予選出場チームは以下の通り。

【男子】AS栃木bom de bola、下野きさらぎSC、今市FCアルシオーネ、今市FCアルシオーネU-13、FC西那須21アストロ、ジェフユナイテッドクオーレ、FCガナドール

【女子】宇都宮市泉が丘中、足利・両毛ローザ

全日本ユース（U-15）フットサル 足利・両毛ローザ、関東3位

「全日本ユース（U-15）女子フットサル栃木県大会」で初優勝した足利・両毛ローザが、11月23、24日に茨城県の笠松運動公園体育館で行われた関東大会に出場しました。大会には関東8都道府県の代表8チームが出場。足利・両毛ローザは1回戦で地元のプリティアー310を4-2で撃破しベスト4に進出しました。準決勝では過去に優勝経験がある十文字学園中（東京）に1-4で敗れたものの、初陣で堂々の戦いを繰り広げました。足利・両毛ローザの加藤玲子専務理事に戦いを振り返ってもらいました。

『足利・両毛ローザは2012年に両毛地区の少年トレセン女子を母体に立ち上げたチームで、現在、小学生から社会人まで約20人の選手が在籍しています。』



▲ 足利・両毛ローザの選手たち

今回は中山実優主将（坂西中）を中心とする中学生世代の選手が大会へと臨み関東3位を勝ち取りました。1回戦のプリティアー310戦では、初戦ということで選手たちに緊張もみられましたが、「まず関東1勝」を合い言葉にチームとしてまとめることができました。

準決勝の十文字学園中戦では、敗れましたが最後まで諦めることなく戦うことができ、貴重な経験を積むことができました。4月になれば、新たなメンバーも入ってくる予定です。サッカーとフットサルの両立を目指して引き続き頑張っていきたいと思います。』

全日本ユース（U-18）フットサル 初の県予選、レジェンダ栃木V

『新年度に全国大会が創設される「全日本ユース（U-18）フットサル大会」のプレ全国大会につながる「第1回U-18フットサル栃木県大会」が1月12日、真岡市スポーツ交流館で行われました。大会にはレジェンダ栃木U-18、ラペ・ロタ・サラ、FCガナドールの3クラブチームと、2種から小山北桜高が出場し4チームで熱戦を展開しました。その結果、レジェンダ三栄U-18がリーグ戦2勝1分けで初代王座に輝き、関東大会への切符を手に入れました。チームを指揮した坂本忠之監督に大会を振り返ってもらいました。』

『チームは栃木県フットサルリーグに参戦するレジェンダ三栄の高校生選手を中心に編成しました。時間的制約がある中で、4回ほどプレーを合わせて県予選には臨みました。』

今回、県予選に出場した4チームの実力は互角でした。勝因はあえて挙げるとすれば、「モチベーションを高く保って戦えたこと」。日ごろからフットサルの公式戦を戦っている高校生たちが、高い意識で最後までプレーすることができました。

関東大会は初戦でDALE SC埼玉U-18に5-5、PK4-5で敗れましたが、今回、関東大会を経験した選手は新シーズンもU-18世代でプレーできるので、次回こそは関東制覇ができるよう練習に励みたいと思います。』



▲ レジェンダ三栄U-18の選手たち

■メモ U-18フットサル大会は2012年度から日本フットサル連盟主催でプレ大会がスタート。同年度は既にU-18都県リーグが創設されていた東京都、神奈川県で関東代表決定戦を行った。13年度はトーナメント方式で初めての関東大会を開催。14年度から日本サッカー協会主催の全国大会として正式に動き出す。14年度は栃木県予選を5月ごろに行い、6月に関東大会、8月に全国大会が行われる予定。

バーモントカップと全日本フットサル栃木県予選少年と社会人、大会をコラボ

小学生世代と社会人世代のフットサルを相互に理解しようと、「バーモントカップ第23回全日本少年フットサル大会栃木県大会」と「第19回全日本フットサル選手権大会栃木大会」を11月17日に真岡市スポーツ交流館で同時開催しました。

複数カテゴリーの同日同会場開催は初めての試みで、バーモントカップは大会最終日の準決勝リーグと決勝、全日本選手権は準決勝2試合を、それぞれのカテゴリーの選手が見守る中で行いました。日ごろ、なかなか触れることがない他カテゴリーの試合を間近にみて、小学生プレーヤー、社会人プレーヤーともに刺激を受けた様子でした。

フットサルの普及振興を狙いに、少年連盟のご理解をいただき実現した公式戦のコラボ。今後ともフットサル人口の拡大に向けて、継続実施も視野に公式戦運営を模索していきたいと思ひます。

本年度を振り返って

女子サッカー連盟理事長 井上知佐子

2013年度を振り返ると、目標であったU-15のチームを3チームから5チームへ増やすことができました。これは、長年、4種委員会の協力を経て行ってきたU-12の女子選手の育成が結実した結果と考えます。

ただ、新年度はU-12の女子選手の育成は4種委員会に完全移行されます。そのため女子連盟としては、今後はU-13の女子選手たちのプレーの環境づくりに力を注いでいかなければいけないと感じています。また、引き続き4種委員会とも緊密な協力関係を維持し、選手がU-12からU-13の活動にスムーズに移行できるよう努力していきたいと思ひます。

新年度は、これらの小学生世代から中学生世代への育成のスムーズなリレーション体制の構築や、サッカー未経験者、初心者への積極的アプローチからの女子サッカーの普及などを念頭に置いて活動していく予定です。引き続きご指導、ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。

関東女子リーグ2部リーグ発足 栃木SCレディース参戦へ

本年度、「全日本女子ユース(U-15)サッカー選手権大会」(7、8月、大阪府堺市)で全国ベスト8に入った栃木SCレディースが、今季の栃木県女子サッカーリーグ1部リーグで初優勝を飾り、新シーズンから創設される関東女子サッカーリーグ2部リーグに参戦を果たすことになりました。本県女子サッカー界からは唯一の「関東リーグ参戦」となります。栃木SCレディースを率いて2013年シーズンを戦い、関東女子サッカーリーグ2部リーグ入りまでを導いた田代久美子前監督にここまでの活動を振り返ってもらいました。

『関東女子サッカーリーグへは、栃木県女子サッカーリーグ1部で初優勝を飾り参戦することができました。県リーグの成績は5戦4勝1分け、今までなかなか勝つことができなかつた強豪チームからも勝利を収めることができ、リーグを無敗で終えることができました。』

もちろん夏に「全日本女子ユース」を経験した中学生メンバーの成長などもリーグ初制覇の大きな要因となりました。また、3人の高校生メンバーたちも中学生メンバーの活躍に刺激を受け、気持ちのこもったプレーをしてくれたことがチームを一回り大

大きく成長させてくれました。

今回、創設される関東女子サッカーリーグ2部リーグは、1部リーグから降格してきた2チームと、今季の関東女子サッカーリーグ入替戦で決勝進出を逃した6チーム（上位2チームは1部リーグ昇格）の計8チームで争われます。

栃木SCレディースも本県代表として入替戦に出場しましたが1回戦敗退で関東女子サッカーリーグ1部リーグには入れませんでした。入替戦に敗れての2部リーグ参戦となるわけです。主力だった中学3年生たちが進学などでチームを抜け、メンバーの顔ぶれは大きく変わりますが、ここで巡ってきた「関東リーグ参戦」のチャンスをしっかり生かし、チームとしても、選手としても成長してもらいたいです。

諸事情から新監督を迎えての「関東リーグ参戦」となりますが、格上のチームと対戦するときでも、選手たちは臆せず勝利に向かってプレーしてもらいたいです。』



▲ 栃木SCレディースの選手たち

新たな視点で女子サッカー普及 「グラスルーツ」スタート

サッカー未経験の子どもたちにボールを蹴る楽しさを体験してもらおうと女子連盟主催の「JFAガールズフェスティバル2013栃木」事業が11月3日、鹿沼市の鹿沼自然の森総合公園サッカー場で行われました。日本サッカー協会が推進する「グラスルーツ」のイベントとしては初開催となるもので、同市内の女子児童ら約60人がサッカーを体験しました。女子連盟技術委員会でU-12を担当する徳田明義理事（セレソン宇都宮SC監督）にイベントを振り返ってもらいました。

『今回の「グラスルーツ」では、サッカー体験のない女の子を募って約60人が参加してくれました。当日は通常のサッカーグラウンドを六つに分けて、

参加者たちがゲームとトレーニングを交互に体験できるような流れをつくりました。

指導する上で一番重点を置いた部分は、「参加者にサッカーを楽しんでもらう」ということ。もちろんスタッフである自分たちも楽しめなければ、参加者も楽しいとは感じてくれません。キッズ委員会の協力も得ながら、「選手だけでなくスタッフも元気よく」という意識でイベントに臨みました。

「グラスルーツ」を終えてみて、もっと地区を細分化するなどして小さい単位で回数を増やして行えば、今回以上の効果が得るのではないかと思います。もちろん様々な制約の中で行っている「グラスルーツ」のイベントでもあります。今後とも地道にやっていく必要性を感じました。』

■メモ 「グラスルーツ」は、英語では「grass＝草、roots＝根」となり、日本語訳では「草の根運動」と訳されます。サッカーにおいてはトップ選手育成の対極にある概念で、サッカー経験の有無などを問わず、多くの人にサッカーを楽しんでもらい、そこからサッカーの振興につなげようとする取り組みです。

『ワールドカップ出場を最後に決めた 33番目のチーム。ワールドカップ審判団』

国際副審 相楽 亨

【ブラジルワールドカップ審判員発表！】

「おめでとう、先程発表になったよ」と、上川委員長から電話をもらい、慌ててFIFAのホームページで自分の名前を確認した瞬間「いよいよだな。」と体中の血が沸き立つのを感じました。

南アフリカワールドカップの翌年、新たな審判部長としてスイス人のマッシモブサッカ氏が就任したところから『ブラジルワールドカップ担当審判員選出のためのプロジェクト』はスタートしました。



（我々が宿泊するホテルからの眺め
@リオデジャネイロ／バラビーチ）

我々はロンドンオリンピックとコンフェデレーションズカップに派遣され、合計3試合が評価の対象試合となりました。比較的難しい試合が割り当てられたのは、もちろん前回のワールドカップの経験があるからですが、決してアドバンテージがあるわけではありません。実際今回選ばれた25組のうち、2大会連続選出はわずか4組であり、経験値やネームバリューだけが選出理由にはならないということが証明されました。

【ワールドカップを2倍楽しむ！】

ワールドカップを見る時、プレーと同時にレフリングにも注目すれば楽しさは2倍にも3倍にもなります。皆さんにも是非レフリングに興味を持っていただきたく、注目度の高い審判員のプロフィールを紹介したいと思います。

最初に申し上げたいのは、今回選ばれた審判員の共通点が「スピード」だということです。サッカーの試合におけるプレースピードの高速化に伴い、審判員も選手並みのスピードが求められるようになりました。モダンフットボールの審判員に要求されるポジショニングを、語弊を恐れずに表現するなら「多少プレーの邪魔になってもいいから、選手と同じスピードで争点に向かえ。」と言った感じです。

【特に注目すべき審判員はコチラ↓】

最初にご紹介するのはドイツ人のフェリックス氏。彼は弁護士でしかもイケメン。女性ファンの期待を裏切らないためなのかは不明ですが未だ独身。ロンドンオリンピックの時、真っ先に日本人女性審判員の名前を覚えていたのも彼でした。ピッチの上では躍動感ある走りで選手を追い抜き、力強い対応で選手をコントロールします。チャンピオンズリーグの割り当てを見ても、彼が今ヨーロッパで一押し
の審判であることが伺えます。

次にイタリアのニコラ・リツォーリ氏。職業はシステムエンジニアで、こちらも超がつくほどのイケメン。彼は日本食が大好きでイタリアでもよくお寿司を食べるらしいのですが、築地のすし屋につれていった時「イタリアで食べていたのはスシではなかった・・・。これがほんとのスシなのか。」と、江戸前ずしの実力に感動していました。

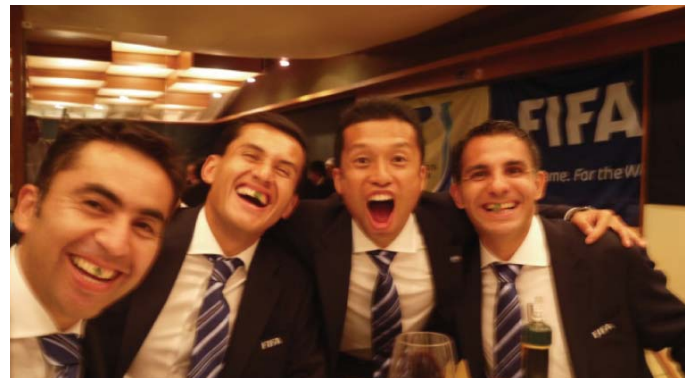
ポルトガルのペドロ氏はそのポジショニングに注目です。彼のスタミナやスピードこそ先ほど申し上げた「今求められているレフリング」と言えるでしょう。

またトルコのチャキル主審も世界中の背があまり高くない審判員の見本となるものです。是非そのレフリング手法に注目して下さい。



品のいいヨーロッパ審判団

最後に紹介するのは南米チリのエンリケ氏。普段は南米特有の陽気さではしゃいでいますが、いざ試合となれば断固揺るがない判定と、ストロングな選手マネジメントで選手からのプレッシャーを弾き飛ばします。コントロールが難しい南米選手に対応するにはこれしかないといった伝統的手法です。



ちゃめつけたっぷりの南米審判団。
わざと歯にニラをつけています。
左から二人目がエンリケ氏



向っていちばん右がペドロ氏。
向って私の左にいるのがフェリックス氏

世界中から選ばれた審判員たちはそれぞれ個性があり、自分が磨いてきたやり方に確固たる自信を持っています。彼らの人生をかけた戦いをお見逃しなく！！

栃木県フットボールカンファレンス 2014 開催

2014年2月1日(土)、とちぎ健康の森・とちぎ生きがづくりセンターにて、栃木フットボールカンファレンス2014が開催された。今回で11回目となるカンファレンスは、「追求！今、栃木のサッカーに必要なこと」をメインテーマに、JFAインストラクターである大野真氏による基調講演からはじまり、2つの講演と座談会による構成で行われた。

「JAPAN'S WAYの実現に向けて」と題した大野氏の基調講演では、FIFA CONFEDERATIONS CUP BRAZIL 2013」のTSGを基に、日本の進むべき方向性について示唆された。世界は、ますます「よりテクニカルに、スピーディーに、タフに、そしてコレクティブに」になっており、高い個人戦術をもった選手がチームプレーに徹している。そうした世界のトップに近づくためには、日本人の良さを活かしたサッカーのための基本＝「テクニック（技術＋判断）」「攻守に関わり続ける個人戦術」「持久力」を、育成年代で徹底していくことが必要であると、大野氏は熱意をもって会場に伝えてくれた。

続いて、平成25年度全国高校総体で3位となった真岡高校サッカー部監督、川上栄二氏による講演「真岡高校の挑戦」が行われた。県内屈指の進学校で、部員数も非常に多い同校サッカー部が、いかに効率良く、質の高いトレーニングを実践しているか、実際の映像も交えて発表された。オーガナイズの工夫やメニューなど、参加者にとって具体的で参考になる講演であった。

午後の部の座談会は、「全国・関東の闘いから感じることをテーマに行われた。栃木SCジュニアの金澤祐介監督、ヴェルディSS小山の石田浩之監督、矢板中央高校の高橋健二監督を招き、進行は福田芳男技術副委員長が務めた。全国・関東と栃木を比較した際、三氏に共通した栃木の課題となったのは「個の育成」。単なるボールコントロールのテクニックだけではなく、状況判断を伴った技術と個人戦術のレベル、さらには一人の自立した個人としての成長レベルが、関東以上の闘いから、栃木の育成年代共通の課題として浮き彫りになった。

最後は、「栃木SCアカデミーの育成について」

と題して、栃木SCユース監督の上野優作氏による講演が行われた。栃木SCアカデミーの活動を通して、各カテゴリーの現状を見てきた同氏。栃木のサッカーを盛り上げるためには、我々指導者が、子どもたちに夢を与え、子どもたちを自立させ、サッカーの楽しさを伝えていくことを、あきらめずに根気強く続けていく必要がある。また、栃木がさらに上を目指すためには、子どもたちの成長のスピードを上げることが必要であると力説した。そして、そのためには、我々指導者自身のレベルアップが必要不可欠であることは言うまでもない。

栃木フットボールカンファレンスは、来年2015年は開催せず、今後は隔年開催となる。技術委員会では、栃木の指導者にとってより充実したカンファレンスとなるよう、開催形式等も含めて検討していく。



川上氏による講演の様子



座談会の様子

テーマ：

追求！今、栃木県サッカーに必要なこと

開演 9:55

9:55 オープニング

10:00 技術委員長挨拶
(公社)栃木県サッカー協会
技術委員長 川上栄二

10:15 JAPAN'S WAYの実現に向けて
～日本のユース年代の育成について～
FAインストラクター 大野真

<休憩>

11:30 発表「真岡高校の挑戦」
真岡高校監督 川上栄二

<休憩（昼食）>

13:05 座談会
「全国・関東の戦いから感じること」
栃木SCジュニア監督 金澤祐介
ヴェルディSS小山監督 石田浩之
矢板中央高等学校監督 高橋健二

14:15 講話
「栃木SCアカデミーの育成について」
栃木SCアカデミーダイレクター
上野優作

15:15 質疑応答

15:30 クロージング

15:40 事務連絡 解散

参加者の皆様にアンケートの協力をいただきました。下記の通り集計結果を掲載いたします。

なお、このアンケート集計結果に載らない部分で、様々な要望もいただきました。

時間と会場スペースに限りがあるため、皆様全ての要望に応えられず誠に申し訳ございません。

今後とも御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

第11回フットボールカンファレンス								
全体 (254人)								
年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
	2	19	60	117	50	6	0	254
				よい	変更			計
1. 日時・日程について	(1)実施日			236	20			256
	(2)時間帯			243	11			254
2. 場所について	(1)会場			248	10			258
	(2)施設・設備			244	10			254
3. 内容について	評価	4	3	2	1			計
	(1)JAPAN'S WAY	166	75	14	4			259
	(2)真岡高校の挑戦	146	80	20	6			252
	(3)座談会	83	83	70	15			251
	(4)栃S育成	137	90	24	3			254
				よい	変更(反対)	どちらでも		計
4. 参加費について				169	80	2		251
5. 隔年開催について								0
6. 宿泊開催(懇親会)について				44	187	4		235

1. 日時・日程要望 日曜日開催(3)。スタート早く、終わりも早く(2)。隔年開催であれば1年の統括ではなく、今後の指導に活かせる別の時期(年度前半)でも良い。半日がいい(2)。年2回。平日。秋。5月。夜。時間短く。
2. 場所要望 喫煙所が欲しい(4)。宇都宮文化会館。総合教育センター。食事できるとこ(2)。スクリーンを増やして。小山。栃木。昨年と比べて非常によかった。座りにくい。出入りが困難。
3. 内容要望 映像がありわかりやすかった。勉強と部活の両立のための工夫が参考になった。やり方を変えたほうが良い。GKIについて触れていてよかった。
4. 参加費要望 もう少し安くしてほしい。栃木SCの招待券などをつけてもらえると宣伝になるのでは。
5. 隔年開催について ライセンス別に開催し、内容も対象年代にあったものにする。できれば、毎年1回開催してほしい。隔年開催にするならば、年間2回にしてほしい。
6. 宿泊開催(懇親会付) 要望 ポイントの取得を2日間参加だけでなく、1日あるいは半日でも可能にしてもらいたい。宿泊の場合は2日で20ポイント、1日なら10ポイントとしてほしい。費用負担が大きい。日帰りでも2日間でも良いのでは？

中央トレセンU-12

2014年1月11日(土)～12日(日)に都賀スポーツ公園と壬生町総合運動公園において、今年度の中央トレセンU-12が行われた。中央トレセンでは、トレセンスタッフによるトレーニングや大牧稔インストラクターによるレクチャー等を実施した。対象は栃木県トレセンU-12の選手で、はじめに栃木県トレセンスタッフが指導実践を行い、その後大牧インストラクターからのアドバイスや指導実践が行われるという流れで進んだ。トレセンスタッフによる指導実践では、①パス&コントロール②ビルド

アップ③チャレンジ&カバーなどがテーマに挙げられ、各スタッフが熱のこもった指導を実践した。

トレーニング内容は、

①パス&コントロール

Tr1→4対2 (2対1+2対1) Tr2→3対3 (3対3+2フリーマン) GAME (6対6 GK含)

②ビルドアップ

Tr1→3対3+2サーバー Tr2→4対4+サーバー (5対5) GAME (7対7+GK)

③チャレンジ&カバー

Tr1→2対2+2対2+フリーマン+2サーバー
Tr2→5対5+2サーバー GAME (5対5+2 GK)であった。

指導後のインストラクターからのアドバイスとしては、

- ・プレーの確保が不十分なので、もう少し連続してプレーさせた方がよい。(①パス&コントロール)
- ・観ることを促す必要があるなので、足下だけでなく、もっと選手の顔を見てあげた方がよい。(①パス&コントロール)
- ・ビルドアップなのでボールを奪いに行かせた方が練習になる。(②ビルドアップ)
- ・1STの厳しさ、2ラインの連携、最後まで粘り強さをコーチが求めることが必要。(③チャレンジ&カバー)
- ・全て奪いに行かせるのではなく、遅らせた方がよい場面もある事を伝えて欲しい。(③チャレンジ&カバー)

などがあり、トレセンスタッフも熱心にアドバイスを聞いていた。

技術委員会としてはこのような活動を通して、県内指導者の指導力向上を図っていただけることを期待したい。



指導実践風景



大牧氏によるレクチャー風景

1/11(土)	
8:30	選手グラウンド集合
10:00	スタッフ指導実践【○調整中】 実践①：パス&コントロール【○調整中】
11:00	実践②：ビルドアップ【○調整中】 インストラクターによる反省会・ディスカッション
12:00	終了
12:30	昼食
14:00	スタッフ指導実践【○調整中】 実践③：チャレンジ&カバー (3対3～6対6) 【○調整中】
15:00	実践④：ゲーム形式 (8対8) テーマ：守備【○調整中】 インストラクターによる反省会・ディスカッション
16:00	終了
18:00	夕食
19:00	インストラクターによるレクチャー (壬生町総合運動場会議室)
21:00	終了
1/12(日)	
6:00	起床
7:00	朝食
9:00	スタッフによる指導
12:45	終了
13:00	昼食
14:00	閉会式・解散

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 奥澤 直人 | FC西那須野21槻沢 |
| 相樂 亨 | OMFC |
| FC西那須野21アストロ 保護者会 | 石崎 洋子 |
| 川村 透久 | 宇都宮大学サッカー部OB会 |
| ウチノ税理士法人 | 栃木県社会人サッカー連盟審判委員会 |
| 鹿沼フットボールクラブOB会 | 栃木信用金庫 |
| 北山 亮 | シノザキスポーツ |
| 檜山 達夫 | (株)竹石ビル |
| FCグランディール宇都宮 | 滝の原サッカーOB会 |
| 宇都宮北高サッカー部 OB会 | 佐野日本大学高校サッカー部保護者会 |
| ユー福祉タクシー | 野木SSS |
| 小池 一規 | 今市第三カルナヴァル |
| (有)スポーツショップ ヤマトヤ | 泉フットボールクラブ宇都宮 |
| 大内中学校サッカー部保護者会 | 安達 賢二 |
| 宇都宮イーストFC | 東那須野FCフェニックス |
| 円印刷株式会社 | 揚茜クラブ |
| 星野みい子 | 栃木県立小山西高等学校サッカー部 |

賛助会員募集のお願い

本協会は地域スポーツ文化の向上と県民の健康増進を目標に、活気にあふれ、夢の持てる栃木県を作るため、サッカーを通して少しでも貢献したいと願い活動しております。

つきましては、年額1万円以上(1口1万円)の賛助をしてくださる個人・団体あるいは法人を募集しております。

賛助会員のいろいろな特典

- 会員証の発行 ● 広告掲載 ● 広報誌送付
- カレンダーの割引 ● 県サッカー協会主催及び主管大会の無料観戦
- ヤマトヤ・あおきスポーツ・奈良スポーツでミスノサッカー製品20%OFF



お問合せは公益社団法人栃木県サッカー協会事務局(TEL:028-688-8411)まで



公益社団法人 栃木県サッカー協会 事務所移転のお知らせ
(3月12日移転)

- ★ 新住所：〒320-0857 宇都宮市鶴田2-2-10 鈴運メンテック(株)ビル2F
- ★ TEL：028-688-8411 FAX：028-688-8400

オフィシャルサプライヤー
ミスノ株式会社

- | | |
|---------|--------------------------|
| ■ 発行 | 公益社団法人 栃木県サッカー協会 |
| ■ 編集 | 公益社団法人 栃木県サッカー協会 記録広報委員会 |
| ■ 発行責任者 | 石崎忠利、村上富士夫 |
| ■ 印刷所 | 円印刷株式会社 |